

県民主役の新たな県政運営スタイル

福井県『政策オープンイノベーション』

ver. 1



令和3年6月
福井県

はじめに

北陸新幹線や中部縦貫自動車道など、高速交通ネットワークの整備が進展し、福井県は今、県勢を大きく飛躍させる100年に一度のチャンスを迎えています。

福井県では、令和2年7月、長期的な展望に立ち、県勢を次のステージへと引き上げるため、5千人を超える県民の皆さまの参加を得て、2040年を目標とする「福井県長期ビジョン」を策定しました。

長期ビジョンに掲げる将来像を実現するため、県民の主体的な活動を徹底応援するとともに県内外の専門人材との協働による新たな県政運営スタイルへと転換を図ります。政策づくりの透明性を高め、多くの人々の知恵と行動力を結集する「政策オープンイノベーション」へのモデルチェンジです。

キーワードは、「デザイン思考」、「徹底現場主義」、そして「チームふくい」です。

「政策づくりをもっとオープンに！」を合言葉に、創造性とスピードを重視した政策立案を推進し、「県民主役の県政」を実現します。

目次

政策オープンイノベーション 5

新たな県政運営スタイル 6

1 長期的視点

①長期ビジョン（～2020） 8

②実行プラン（2020～2024） 18

③未来をつくる実践目標
「チャレンジ2020、2021」 24

④SDGsパートナーシップ会議 28

2 創造性重視

①政策デザイン 35

②デジタル化（DX） 45

③データサイエンス（EBPM） 52

④地方兼業（都市人材コラボ） 58

⑤チャレンジ政策提案 62

3 機動的対応

①OODAループ 68

②職員クレド 71

③政策トライアル枠予算 74

④県職員の兼業・副業 77

⑤ふくい式20%ルール 81

4 総合力発揮

①知事と市町長との政策ディスカッション 85

②市町協働課題解決チーム 87

③しあわせアクション運動 89

④FUKUI未来トーク 92

⑤将来構想ワークショップ 98

～県政運営スタイルをモデルチェンジ～

杉本達治 新知事
(令和元年4月就任)



政治理念「県民主役の県政」

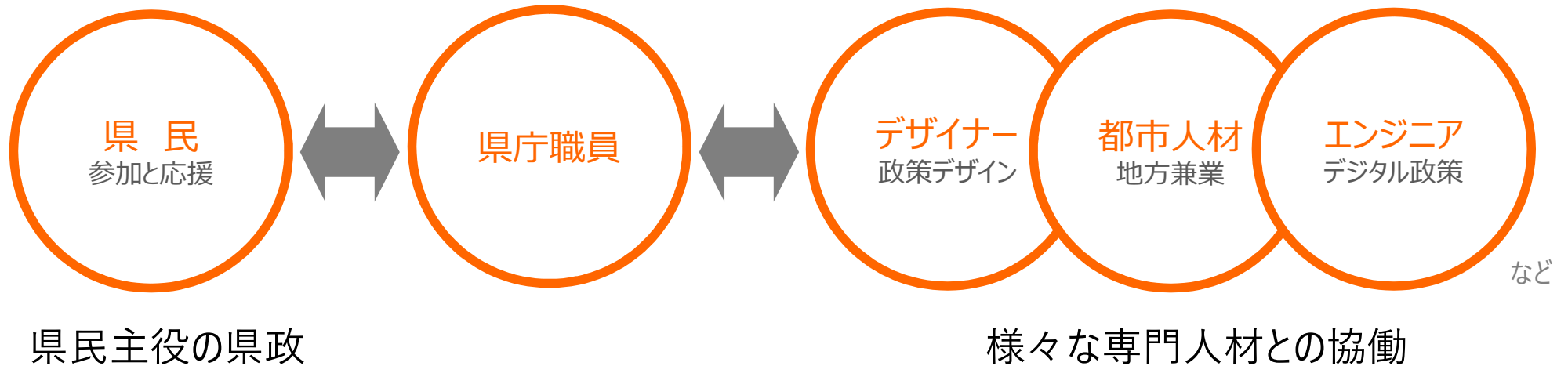
(キーワード)

- ✓ 徹底現場主義
- ✓ 決断即実行
- ✓ チームふくい
- ✓ 文化・デザイン

政策オープンイノベーション

- ・県民参加の促進と主体的な活動の徹底応援
- ・県庁外の専門人材の知見を政策立案に活用

→ 政策づくりをもっとオープンに！



◇「**県民参加**」と応援の仕組み

⇒ 政策の満足度・納得性を向上

⇒ 主体的なアクションの拡大

◇県内外の**専門人材**との協働

⇒ 新政策の立案・政策レベルの向上

⇒ 職員の意識改革・資質向上

新たな県政運営スタイル

これからの県政運営は、「政策オープンイノベーション」の理念に基づき、次の4つの視点を重視し進めていきます。これらの視点に基づき、これまで導入・実践してきた具体的手法を紹介します。具体策については、今後も適宜見直しと改善を行い、新たな手法の導入も図ります。

1 長期的視点

長期ビジョンに基づく
県政運営

- ・長期ビジョン（～2040）
- ・実行プラン（2020～2024）
- ・未来をつくる実践目標「チャレンジ2020、2021」
- ・SDGsパートナーシップ会議

2 創造性重視

デザイン思考に基づく
県政運営

- ・政策デザイン
- ・デジタル化(D X)
- ・データサイエンス(E B P M)
- ・地方兼業（都市人材コラボ）
- ・チャレンジ政策提案

3 機動的対応

徹底現場主義に基づ
く県政運営

- ・OODAループ
- ・職員クレド
- ・政策トライアル枠予算
- ・県職員の兼業・副業
- ・ふくい式20%ルール

4 総合力発揮

「チームふくい」による県
政運営

- ・知事と市町長との政策ディスカッション
- ・市町協働課題解決チーム
- ・しあわせアクション運動
- ・F U K U I 未来トーク
- ・将来構想ワークショップ

新たな県政運営スタイル

1 長期的視点

長期ビジョンに基づく県政運営

- ① 長期ビジョン（～2040）
- ② 実行プラン（2020～2024）
- ③ 未来をつくる実践目標「チャレンジ2020、2021」
- ④ S D G s パートナーシップ会議

①長期ビジョン(～2040)

高速交通ネットワークの整備の進展による100年に1度のチャンスを活かし、県勢をさらに発展させていくためには、長期的な展望に立ち、県民の皆さんと将来像を共有しながら政策を進めていく必要があります。

令和2年7月、「みんなで描こう『福井の未来地図』」をコンセプトに、5千人を超える県民の皆さんの参加をいただき、福井県長期ビジョンを策定しました。

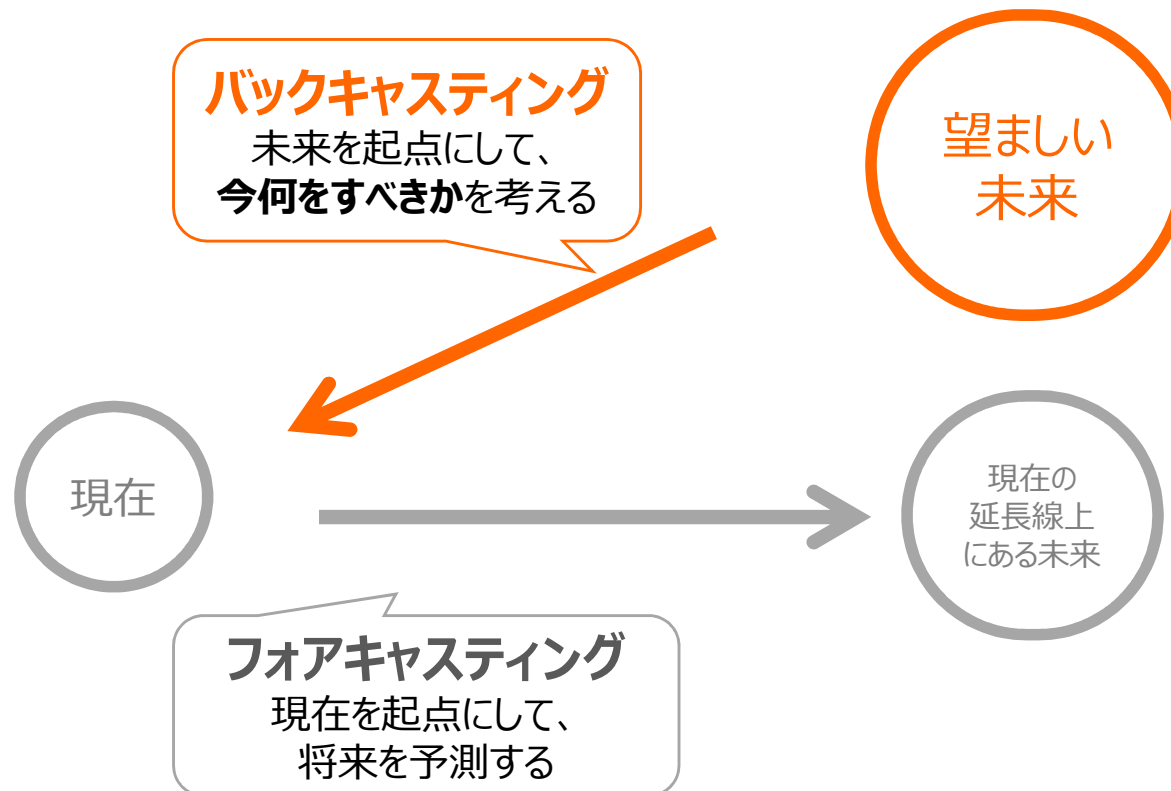
ビジョンの「目指す将来像」を実現するため、5年間の具体的な政策を「実行プラン」として取りまとめるとともに、地域ごとの施策の方向性を「地域プラン」として記載しています。

県民・企業・団体・市町など様々な主体が連携して力を発揮するため、それぞれの個性や特徴に応じた役割を担いながら「チームふくい」でビジョンを実現していきます。

①長期ビジョン(～2040)

- ・2040年の福井県の将来像を県民と共有するため、「福井県長期ビジョン」を策定
- ・ビジョンが目指す将来像を実現するため、バックキャストで政策を立案・実行
- ・県民参加を徹底し、ワークショップ等を多数開催。ビジョンを「自分ごと」化し、実際に行動

フォアキャストからバックキャストに



①長期ビジョン(～2040)

<長期ビジョンの構成>

第1部 将来構想 【目標年次 2040年】

20年先の
将来像

- ・基本理念、福井県が目指す姿
- ・基本目標
- ・将来イメージ、長期プロジェクト

第2部 実行プラン 【計画期間 2020年度～2024年度】

5年ごとの
実行プラン

- ・新時代スタートアッププロジェクト
- ・分野別政策（5分野18政策）

第3部 地域プラン 【計画期間 2020年度～2024年度】

地域別の
主な施策

- ・県内4地域の将来イメージ

①長期ビジョン(～2040)

策定過程における徹底的な県民参加

<策定コンセプト>

みんなで描こう「福井の未来地図」

～次世代のために、今わたしたちができること～

福井県を取り巻く環境が大きく変化する中、将来世代が希望を持てる持続可能な未来のために、「チームふくい」一丸となって考え、実行

①長期ビジョン(～2040)

長期的視点

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標

福井県の目指すべき将来像を展望 (目標年次2040年)

<将来構想>

(1) 基本理念

「安心のふくい」を未来につなぎ、もっと挑戦！もっとおもしろく！

(2) 目指す姿

「自信と誇りのふくい」「誰もが主役のふくい」「飛躍するふくい」

(3) 基本目標

しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい

(4) 将来イメージ

「基盤」「交流」「暮らし」「産業」における2040年のふくい

(5) 長期プロジェクト

将来イメージを実現するための4つのプロジェクト

①長期ビジョン(～2040)

20年先の
将来像5年ごとの
実行プラン毎年度の
実践目標

< 基本理念 >

「安心のふくい」を未来につなぎ、 もっと挑戦！もっとおもしろく！

長い歴史の中で先人たちが培ってきた「安心と信頼」のふくいを、みんなで守り、次世代に引き継ぎます。

さらに、その安定した社会基盤をもとに、誰もが夢や希望をもって自分らしくチャレンジでき、相互に応援し合う、もっとワクワク・ドキドキする「おもしろい！」ふくいを目指します。

①長期ビジョン(～2040)

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標

< 2040年に福井県が目指す姿 >



SDGs（誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会）の理念に沿いながら、3つの姿を目指します。

自信と誇りの ふくい

「ふくいらしさ」を大切に。
県民が誇りをもって暮らす
ことにより、さらに多くの
人を呼び込む“ふくい”

「ふくいらしさ」を伸ばし、
外に開いて人を呼び込む。

誰もが主役の ふくい

すべての人が輝き、
互いに支え合い、幸せを実感
しながら、将来にわたり
安心して暮らせる“ふくい”

多様な個性を大事にし、
みんなが自分らしく輝く。

飛躍する ふくい

交通体系の進展や
技術革新を活かして、
産業の新たな可能性を拓く。
創造的で活力ある“ふくい”

変化をチャンスに、
しごととくらしを創造。

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標

<基本目標>

しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい

高速交通・物流網の早期完成により、日本海国土軸の中心に位置する本県が「国土の新拠点」に。千年を超える歴史と文化に一段と磨きをかけ、国内外から多くの人が往来。

日本一の人材力・技術力を活かした新たな産業が集積し、「幸福度日本一」の質の高い暮らしを実現する、新時代の活力と楽しさあふれるふくいを築きます。

①長期ビジョン(～2040)

2040年の将来イメージを県民が共有し、実現に向けての推進力を向上



< 将来イメージ「2040年のふくい」 >



福井に残る家族・地域のつながりや、支え合いの精神を大切にしながら、子どもからお年寄りまですべての世代が安心して暮らし、生涯活躍できる全国モデルのしあわせ地域

豊かな歴史と自然環境、洗練された美しい町並みに惹かれ、国内外から多くの人に移り住み、未来技術を活用した新しい働き方と質の高い生活を両立する「くらしの先進地」を全県に



1500年の歴史を誇る伝統工芸をはじめ悠久の歴史に育まれたくらしや文化、自然風土など、福井の「千年文化」が継承され、オンリーワンの魅力に、国内外から多くの人々が惹きつけられ往来する一大交流地

古き良きを新しいよこびに
ともに楽しむ千年文化

誰もがいつまでも居心地よく
全世代の快適人生

自然といっしょに未来を育てる
夢がかなう農林水産業

上質なくらしの先駆け
WAKASA
リフレッシュエリア

ものづくり×デザイン
感動につなぐ
価値づくり産業



日本地図を書きかえる
国土強化の
新ネットワーク

「世界最先端のスマート港湾」敦賀港をはじめ、北陸新幹線や中部縦貫自動車道の完成により、日本海側の重要拠点として、アジアや三大都市圏との人流・物流が飛躍的に拡大



福井の生活や文化、農山漁村の風景を形づくってきた農林水産業が、最新技術の活用やプレミアムブランドの創出により「稼ぐ力」を一段と高め、若者が憧れる新たな成長産業に飛躍

福井の産業集積とそれを支える高い人材力に、技術革新とデザインが結び付き、新たな価値を創り出す先端企業が次々に生まれ成長する「地域循環型」の新産業集積地



①長期ビジョン(～2040)

福井県の強みを生かし、基本目標と将来イメージを実現するための、
20年間の長期プロジェクト

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標

【長期プロジェクト】

福井県の強み

- ① **日本海国土軸の中心地**
「日本海国土軸」の中心に位置し、関西・中京との結節点にある地理的優位
- ② **千年を超える歴史と文化**
1500年の歴史を誇る伝統工芸をはじめ、悠久の歴史と文化の圧倒的な厚み
- ③ **地域のつながりと支え合い**
集落等の共同生活の中で育まれた地域の絆の強さや助け合いの精神
- ④ **日本一の人材力と技術力**
教育水準が高く、勤勉でまじめな県民性と優れた技術を持つ産業集積



「幸福度日本一」の地域力
様々な調査において「幸福度日本一」の評価を受ける総合力の高さ

ふくいの強みを最大化する4つの長期プロジェクト

1 県境フロンティアプロジェクト

東西南北に開く高速交通・物流ネットワークの整備を加速し、新時代の交流・くらし・産業の基盤をつくる

2 千年文化の継承発展プロジェクト

千年を超える歴史・文化やオンリーワンの魅力に磨きをかけ、「交流」と「楽しさ」を大きく拡げる

3 くらしの新デザインプロジェクト

地域の絆と支え合いの精神を大切に、新たなつながりと最新技術を活かし、「日本一質の高いくらし」を実現する

4 価値づくり産業創造プロジェクト

地域産業の厚みと優れた人材力を基に、技術革新とデザインを結び付け、新たな価値を生み出す産業をつくる

4つの長期プロジェクトにより実現する2040年のふくい

しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい

②実行プラン(2020～2024)

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標

長期ビジョンの将来構想に掲げた2040年頃の目指す姿を実現するため、最初の5年間で実行する主な政策・施策を「実行プラン」として取りまとめました。

新幹線県内開業等を迎えるこの5年間は、外に開いて人を呼び込み、「県民参加」と「市町協働」をキーワードに、県民一丸となってプロジェクトを実行していくことが必要です。

そのため、将来構想に示した3つの目指す姿のうち、特に『飛躍するふくい』の実現に向けた戦略を「新世代スタートアッププロジェクト」として位置付けました。

「とんがろう、ふくい」をコンセプトに「ふくいエンタメ計画」、「次世代チャレンジ宣言」、「しあわせアクション運動」の3つのプロジェクトを最重点化し実行します。

さらに「学びを伸ばす（人材力）」、「成長を創る（産業力）」、「楽しみを広げる（創造力）」、「安心を高める（地域力）」、「ともに進める（総合力）」の5分野・18政策の体系に基づき、部局横断で進めます。

②実行プラン(2020～2024)

長期的視点

将来構想に掲げた目指す姿を実現するための政策 (目標年次2024年)

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標

< 実行プランの構成 >

(1) 新時代スタートアッププロジェクト

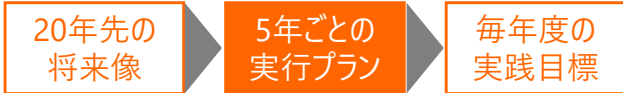
「飛躍するふくい」の実現に向けた重点プロジェクト

(2) 分野別政策

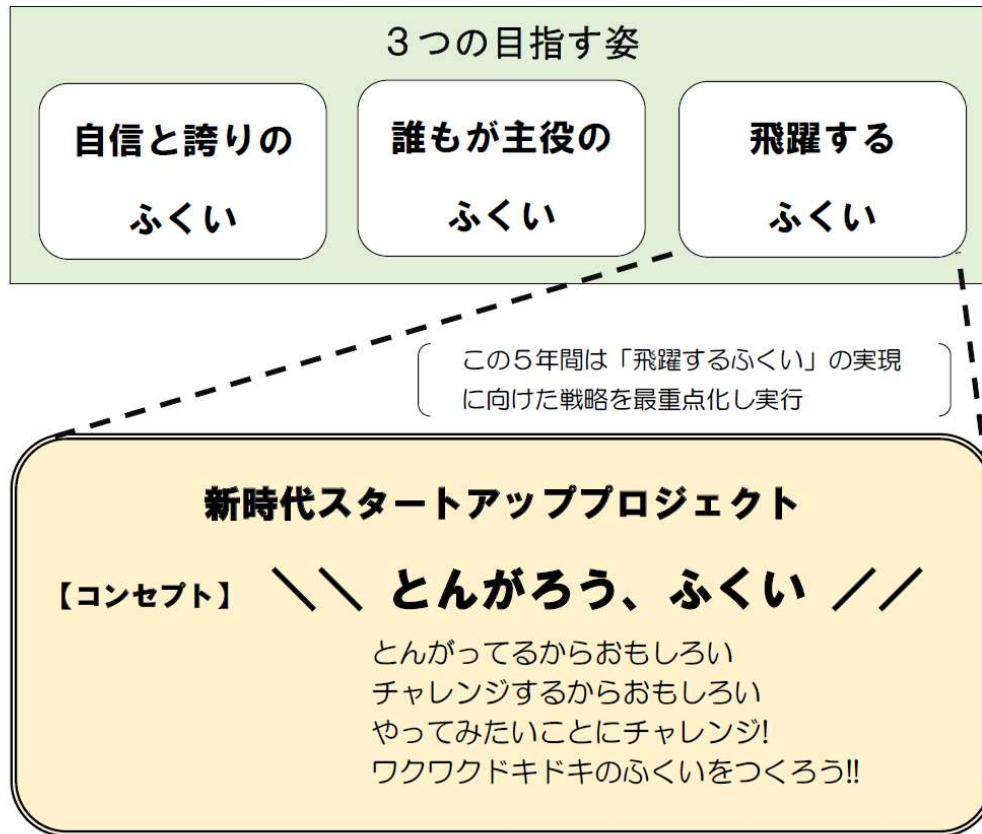
5分野18政策からなる5年間の重点施策

②実行プラン(2020~2024)

新幹線県内開業を迎えるこの5年間(2020-2024)は「飛躍するふくい」の実現に向けた戦略を「新時代スタートアッププロジェクト」と位置付け、最重点化し実行



<新時代スタートアッププロジェクト>



※「とんがろう、ふくい」には、一人ひとりが個性を発揮し、変化や失敗を恐れず、お互いのチャレンジを応援し合う福井を目指そうという想いを込めました。

②実行プラン(2020～2024)

「県民参加」と「市町協働」によって“行政だけが担うプロジェクト”ではなく
“一人ひとりが参加し育てるプロジェクト”に

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標

< 新時代スタートアッププロジェクト >

ふくいエンタメ計画

～ふくいの魅力を
とがらせよう～

「ふくいをもっとおもしろく」を
合言葉に。

観光、文化、スポーツ等の
尖った魅力で多くの人を
呼び込み、県民も来訪者も、
誰もが楽しめる場所・機会
を創出



〔目標〕

ビジット2000

※観光客入込数 2,000万人 (2024年)

次世代チャレンジ宣言

～チャレンジで
未来をつくろう～

「果敢なチャレンジ」で
ふくいの未来を創造。

「次世代ファースト」
の観点から、創業支援、
働き方改革等により若者
に魅力ある仕事を創り、
尖った企業・人材を輩出



〔目標〕

スタート3000

※創業・事業承継等の件数 3,000件
(2020～2024年度計)

しあわせアクション運動

～一人ひとりが
プレイヤーになろう～

「一人ひとりの小さなアク
ション」がふくいを変える。

それぞれが自分の立場で
できることを考え、持ち寄
る「県民総参加」の社会を
形成

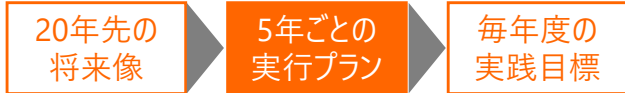


〔目標〕

アクション1000

※県民の主体的な活動応援 1,000件
(2020～2024年度計)

②実行プラン(2020~2024)



2040年の将来像を実現するため、5分野に分けて具体的な政策を企画・実行

<分野別政策>

- 基本理念・目指す姿を実現するため、次の5分野に分けて具体的な政策を企画・実行
- 福井の「文化」と「デザイン」の力を活かし、政策の質を向上

学びを伸ばす (人材力)	成長を創る (産業力)	楽しみを広げる (創造力)	安心を高める (地域力)	ともに進める (総合力)
ふくい人が宝。 地域を支え、 未来を創造する 人材の育成	力強い産業基盤 の確立。 チャレンジできる 地域経済の構築	多彩な魅力で 交流拡大。 交通新時代の 活力の創出	人生100年時代の 「健康文化」創造。 くらしを守る 安全・安心	協働による 県民主役の県政。 外に開き 連携強化

②実行プラン(2020~2024)

最初の5年間で実行する18の政策の柱



<分野別政策>

分野	政策
学びを伸ばす (人材力)	1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成
	2 ふくいの産業・社会を支える人づくり
	3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現
	4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援
成長を創る (産業力)	5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ
	6 地域経済のイノベーション
	7 Society5.0時代の新産業創出
	8 拡大する世界市場をふくいの成長へ
楽しみを広げる (創造力)	9 100年に一度のまちづくり
	10 北陸新幹線開業等の効果を最大化
	11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略
	12 文化・スポーツがふくいの活力
安心を高める (地域力)	13 人生100年時代の健康ライフスタイル
	14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉
	15 ふるさとの暮らしと風景の維持
	16 防災先進県ふくいの実現
ともに進める (総合力)	17 「チームふくい」の行政運営
	18 広域パートナーシップの強化

③未来をつくる実践目標「チャレンジ2020、2021」

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標

長期ビジョンの将来構想に掲げた目指す姿を実現するためには、長期的な視点からバックキャストで毎年度の政策を立案、実行していく必要があります。

このため、各政策の実施により、どのような姿を目指していくのかを長期ビジョンの体系で整理し、「実践目標」として県民の皆さんに分かりやすく示します。

これらの政策を部局横断的に実行するとともに、社会環境の変化に即応するため、徹底現場主義およびOODAループの考え方にに基づき、施策を柔軟かつ機動的に見直していきます。

③ 未来をつくる実践目標「チャレンジ2020、2021」

- ・長期ビジョンの体系に基づき「長期的視点」で県政を推進するための仕組み
- ・目指す将来像を実現するため、バックキャストで政策を立案・実行
- ・県民に対して実践目標を分かりやすく提示し、部局連携で政策を実行
- ・「徹底現場主義」により、柔軟に施策の追加・見直しを実施

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標



③未来をつくる実践目標「チャレンジ2020、2021」

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標

・よりどころは「マニフェスト」(4年間)ではなく「長期ビジョン」(20年間)

①よりどころ



・目標のベクトルは「内向き」(知事⇄部局長)ではなく「外向き」(県⇄県民)

②目標のベクトル



・実施体制は「部局別」ではなく「部局横断」

③実施体制



・年度当初に設定した「数値目標の達成管理」からOODAループに基づく「施策の柔軟な見直し」へ

④機動性



③未来をつくる実践目標「チャレンジ2020、2021」

【令和2年度の例】

20年先の
将来像

5年ごとの
実行プラン

毎年度の
実践目標

チャレンジ2020

Ver. 1

Ver. 2

Ver. 3

<p>新時代スタートアップ 主要プロジェクト</p>	<p>5年間の重点プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくいエンタメ計画 ・次世代チャレンジ宣言 ・しあわせアクション運動 <p>の主な政策を設定</p>	<p>上半期の 進捗状況 を記載</p>	<p>年間の 進捗状況 を記載</p>
<p>分野別の主要政策</p>	<p>長期ビジョンの体系に沿って</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿 (長期) ・主な施策 (1年) ・KPI (1年) <p>を設定</p>	<p>上半期の施策・KPIの 進捗状況 ・追加、見直し を反映</p>	<p>年間の施策・KPIの 進捗状況 ・追加、見直し を反映</p>
<p>県政の主な成果</p>		<p>上半期の 主な成果 (11月) を紹介</p>	<p>年間の 主な成果 (翌5月) を紹介</p>

チャレンジ2021

④SDGsパートナーシップ会議

SDGs（Sustainable Development Goals）とは、「誰一人取り残さない。多様性と包摂性のある持続可能な社会」の実現を目指し、2015年9月の国連サミットにおいて採択された2030年までの国際目標です。

長期ビジョンでは、SDGsの理念に沿って、「自信と誇りのふくい」、「誰もが主役のふくい」、「飛躍するふくい」の3つの姿の実現を目指しています。

SDGsの理念に沿いながら持続可能な地域・社会づくりを全県一体となって進めるため、企業や団体、教育・研究機関、NPO、自治体などの多様な主体が参画する官民連携プラットフォーム「福井県SDGsパートナーシップ会議」を令和2年8月に創設しました。

長期ビジョンの実現を目指すための具体的な取組みの一つが、SDGsパートナーシップの活動です。パートナー同士の連携・協働により、全県一体となって持続可能な地域づくりを進めていきます。

④SDGsパートナーシップ会議

【パートナーの活動コンセプト】



未来のために。
～次の世代に選ばれる福井へ～

未来を担う次世代（子ども、若者、子育て世代）に
福井の良さを継承し、希望を持って
自分らしくチャレンジできる社会をつくる

【パートナーの活動テーマ】

- ①次世代を育てる ーふくいを愛する子どもを育てる
- ②次世代を応援する ー若者のチャレンジ応援
- ③次世代の社会をつくる ー共生・共助社会の実現
- ④次世代に引き継ぐ ー暮らしと風景の維持・継承

【活動事例】

- ・ 郷土について学び、発信するふるさと教育の促進
- ・ 工場見学、職場体験などの受入れ
- ・ 子どもたちの文化・スポーツ活動の応援
- ・ 子どもの見守り活動の実施
- ・ テレワークやフレックスタイム等の導入による子育て世代の柔軟な働き方の支援
- ・ 男性の育児休暇取得の促進



④SDGsパートナーシップ会議

官民協働で目指す姿を実現

福井県SDGsパートナーシップ会議

SDGs の理念に沿って長期ビジョンの実現に向けた活動を実践する官民連携プラットフォーム
 …… SDGs の普及啓発、研修会等の開催、メンバー間の連携・協働の促進などを実施

[活動コンセプト] **未来のために。～ 次の世代に選ばれる福井へ～**

福井県長期ビジョンでは、SDGsの理念（誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会）に沿って、「自信と誇りのふくい」「誰もが主役のふくい」「飛躍するふくい」の3つの姿の実現を目指している。SDGsの理念は、先人から受け継いだ福井の生活スタイルや支え合いの精神に通じるものがあり、SDGsの理念を広げることは福井の良さを伸ばすことにつながる。
 そこで、「未来のために。」という福井県版のSDGsの活動コンセプトを共有し、企業・団体等の「SDGsパートナー」がSDGsに対する理解を深め、長期ビジョンに掲げた将来像の実現に向けた行動を主体的に実践していく。

[パートナーの活動テーマ]

<p>① 次世代を育てる ふくいを愛する子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 郷土について学び発信するふるさと教育の促進 ● 工場見学、職場体験などの受入れ ● 文化・スポーツ活動の応援 など 	<p>② 次世代を応援する 若者のチャレンジ応援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域活性化に向けた活動に協力 ● 大学や学生グループとの共同研究の場を提供 ● 結婚を希望する若者の出会いの場づくり など
<p>③ 次世代の社会をつくる 共生・共助社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外国人や障がい者など、誰もが安心して暮らせる環境づくり ● 多様な人材が活躍できる職場環境の整備 ● ユニバーサルスポーツや障がい者による芸術文化活動の応援 など 	<p>④ 次世代に引き継ぐ 暮らしと風景の維持・継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 豊かな自然環境や魅力的な里山里海湖などの保全 ● 集落の暮らしの維持・活性化への支援 ● 省エネやリサイクルの推進 など

「ふくいSDGsパートナー」として登録

企業

教育・研究機関

NPO

県・市町

目指す姿

福井県長期ビジョンに掲げる「2040年の目指す姿」

自信と誇りのふくい

「ふくいらしさ」を伸ばし、外に開いて人を呼び込む。

「ふくいらしさ」を大切に。県民が誇りをもって暮らすことにより、さらに多くの人を呼び込むふくい

誰もが主役のふくい

多様な個性を大事にし、みんなが自分らしく輝く。

すべての人が輝き、互いに支え合い、幸せを実感しながら、将来にわたり安心して暮らせるふくい

飛躍するふくい

変化をチャンスに、しごとと暮らしを創造。

交通体系の進展や技術革新を活かして、産業の新たな可能性を拓く。創造的で活力あるふくい

④SDGsパートナーシップ会議

- ・ SDGs 公式ロゴマークデザインを募集
- ・ 467点の応募の中から高校生の作品が選定



福井県版SDGs
公式ロゴマーク



(R2.10.23)

④SDGsパートナーシップ会議

登録企業・団体数 **145** (R2年11月) ▶ **352** (R3年5月末)

【キックオフイベントに参加した登録企業・団体の皆様】



(R2.11.12)

2 創造性重視

デザイン思考に基づく県政運営

- ① 政策デザイン
- ② デジタル化 (DX)
- ③ データサイエンス (EBPM)
- ④ 地方兼業 (都市人材コラボ)
- ⑤ チャレンジ政策提案

①政策デザイン

これまでにはない新たな政策を生み出していくためには、物事の本質を見極め、自由な発想で解決のアイデアを示す「デザイン思考」が求められます。また、政策づくりのプロセス段階からデザイナーやクリエイターなど多様な専門人材が議論に参加し、ともに政策を作り上げていくことが必要です。

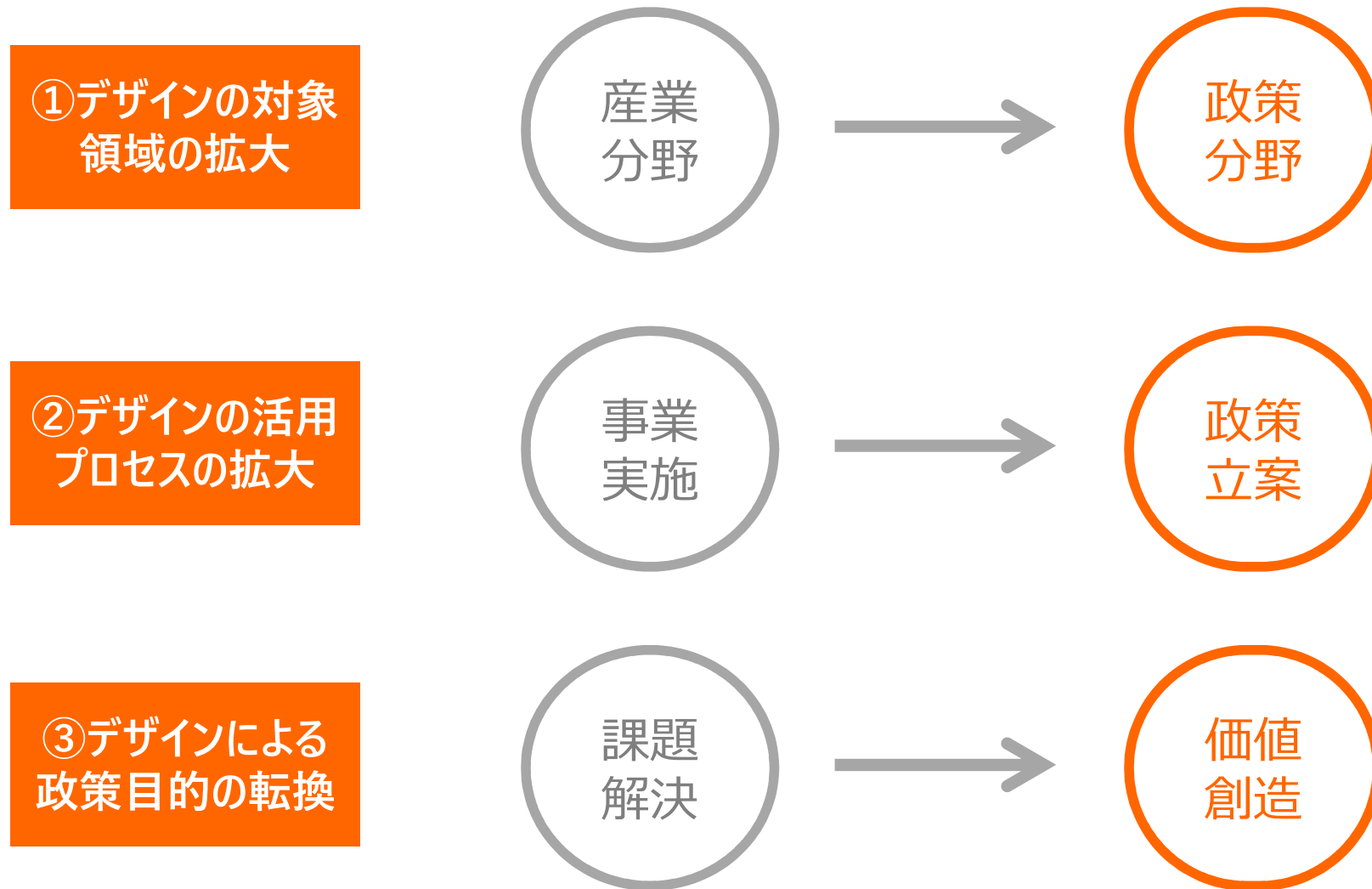
このため、デザインの活用領域を、「産業分野」から「政策分野」へと広げ、担当部局と県内外のデザイナーをつなぎ、アイデアを政策に反映する仕組みを構築します。

デザイナーやクリエイターが政策づくりに参加し、新しい発想で公共のあり方を考える「パブリック・デザイン」を実践します。その一環として、令和3年3月、行政と県民、専門人材の協働のためのプラットフォーム「パブリックデザインラボふくい（Public Design Labo Fukui）」を未来戦略課に開設しました。

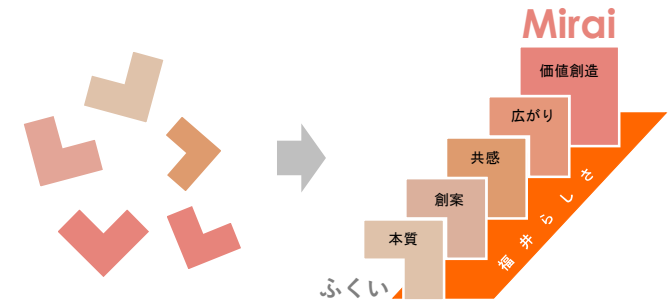
顧客視点で物事の本質を見極める「デザイン思考」に基づき、「価値創造型」の行政を実現していきます。

①政策デザイン

Design デザインで政策をモデルチェンジ



①政策デザイン



[デザイン思考による“価値創造”の仕組みを設計]

①本質をつかむ

表面化していない課題や問題点を自ら見つけ、その本質を見極める

本質

②アイデアを生み出す

多様な方々との協働・共創により、根本的な課題を解決する新たなアイデアを発想する

創案

③共感を引き出す

デザインので政策をわかりやすくカタチにし、関係者に新たな気づき、共感、感動を生む

共感

④行動を拡げる

感動や共感をシェアすることにより、政策の賛同者を増やし、活動の輪を拡げる

広がり

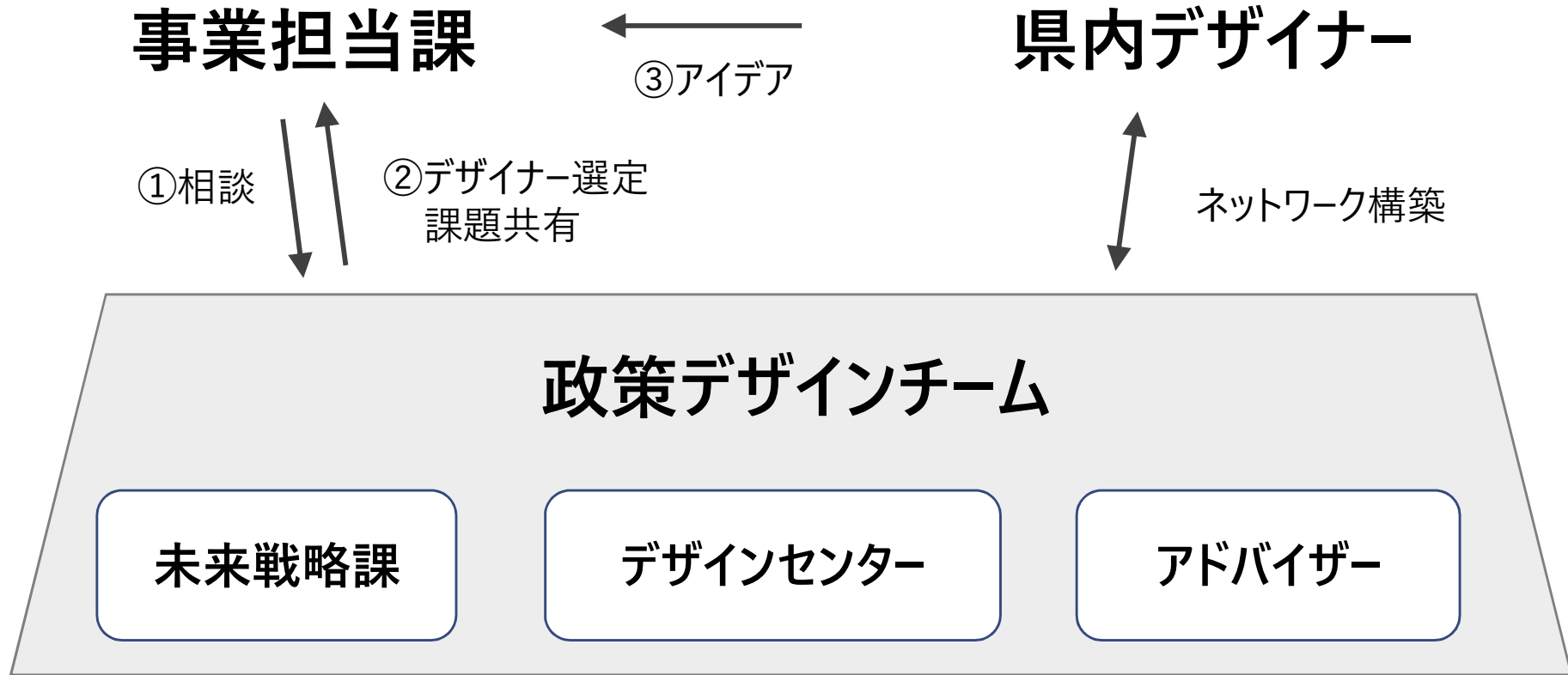
⑤意味をつくる

①から④のプロセスを経ることにより、政策に新たな価値・意味をつくりだす

価値
創造

①政策デザイン

< 推進体制 >



事業の見直し

- ・コンセプトの明確化
- ・新たなアプローチ
- ・分かりやすいデザイン
- ・福井らしさ など

①政策デザイン

デザイナー、事業担当課、企画担当課による政策のブラッシュアップ



政策デザイン相談ワークショップ（交通安全WS） 2019.12.17

①政策デザイン

政策デザインWSから生まれたアイデア「交通安全家族！」

< 取組例 >



通常パターン



政策デザインパターン

①政策デザイン

政策デザインWSで磨き上げた「ふくいSDGs」

< 取組例 >

次の世代に選ばれる福井へ—



ふくいSDGs パートナー 登録募集

「次世代ファースト」を合言葉に、県や関係者と協力しながら
持続可能な地域・社会づくりに取り組む企業・団体等を募集します。

福井県では、SDGsの理念に沿いながら、持続可能な地域・社会づくりを全県一体となって進めるため、企業や団体、教育・研究機関、NPO、自治体などの多様な主体が参画する官民連携プラットフォーム「福井県SDGsパートナーシップ会議」を創設します。
「ふくいSDGsパートナー」登録制度は、このプラットフォームに参画する企業・団体等登録・PRするもので、各パートナーがSDGsの達成に資する活動を主体的に実践するとともに、ネットワークを活用してその活動の幅を広げていただくことを目指しています。

登録メリット

- SDGsに積極的に取り組む企業・団体等として、県がホームページ等でPRします。
- オリジナルロゴマークを名刺や会社案内等に使用できます。
- SDGsの取組みについて、アドバイザーの助言を受けることができます。

**「ふくいSDGsパートナー」
ロゴマークデザイン募集！**

最優秀賞(1点) 5万円
応募締切 令和2年 9月 4日(金)必着

「ふくいSDGsパートナー」活動コンセプト

次世代ファースト

未来を担う次世代(子ども、若者、子育て世代)に福井の良さを継承し、希望を持って自ららしくチャレンジできる環境をつくるため、SDGsの理念に沿って主体的にアクションすることを意味します。
それらは次の世代に選ばれる、持続可能な福井県の実現につながります。

「ふくいSDGsパートナー」登録制度

研究機関、特定非営利活動法人、
または取り組む意欲のある企業・団体等で、
代表者の考えが宣言されていること。
達成に向けた具体的な活動の内容について「次世代ファースト」に合致する活動であること。
有していないこと。

申し込み、必要事項をご記入の上、メール等でお申し込みください。

パートナーシップ会議

次世代に選ばれる福井へ—
研究会の開催、
協働の促進 など

「ふくいSDGsパートナー」登録

NPO 県・市町

ロゴマークデザイン募集
をご覧ください。



Before



ふくいの未来を考えると、
なんか出てきました。

これからの福井を考えると、これからの強みになる

ふくいSDGsパートナー 企業・団体募集！

「未来へつづく福井」をつくる事業をバックアップします

今や「SDGs」は未来を語る際に欠かせないキーワードであり、若者など次世代からの注目度も高まっています。福井県では、長期ビジョンに掲げたSDGsの理念に沿いながら、持続可能な地域・社会づくりを全県一体となって推進します。2020年、企業や団体、教育・研究機関、NPO、自治体などが参画する官民連携プラットフォーム「SDGsパートナーシップ会議」を創設します。

参画メリット

- SDGs事業への取組み方について、アドバイザーから助言を受けられます。
- SDGsに積極的に取り組む企業や団体などを福井県がPRします。
- オリジナルロゴマークを名刺や会社案内などに使用できます。

対象者

福井県内に事業所などを置く企業、
団体、教育・研究機関、NPO法人、
地方公共団体 など

【登録方法】
福井県のホームページから申請書等をダウンロードし、
必要事項をご記入の上、メールなどでご提出ください。
https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/sdgs/sdgs-partner.html

【問合せ先】
福井県地域戦略部未来戦略課
〒910-8580 福井市大手3丁目1-1
TEL0776-20-0759 FAX0776-20-0623
E-mail mirai-senryaku@pref.fukui.lg.jp

After

①政策デザイン

デザイン思考を学ぶ実践研修の実施

政策デザイン研修による職員のレベルアップ（株式会社トリニティ）

基礎研修

7月
2 DAY

- ・デザイン思考の基礎
- ・商品開発事例による実践
- ・デザイン思考で政策テーマを考える

実践研修

9月～
3 DAY

- ・問いの整理とFWの準備
- ・アイデア創造
- ・デザイン思考で政策をつくる

(ねらい)

- ✓デザイン思考の理解・定着
- ✓デザイン思考による政策立案



①政策デザイン

デザイナーやクリエイターなど様々な人材が政策づくりに参加し、新しい発想で公共政策を考える「パブリック・デザイン」を实践

その一環として、行政と県民、専門人材等の協働・共創のためのプラットフォーム「パブリックデザインラボふくい (Public Design Labo Fukui)」を未来戦略課内に開設

デザイナー

クリエイター

DX人材

市町職員



都市人材

学生

起業家

県庁職員

協働・共創のプラットフォーム



パブリックデザインラボふくい

①政策デザイン



資料作り中心の執務スペースを新しい発想を生み出すコミュニケーションハブへ



②デジタル化(DX)

人口減少や超高齢化、過疎化など多くの課題に直面する中、今後、交通や医療など県民の生活に必要な様々なシステムの変革が必要となります。

DX（デジタル・トランスフォーメーション）とは、「デジタル技術を活用することにより、人々の生活をより良いものへの変革する」とされています。今後、福井県においても、あらゆる政策分野においてDXを積極的に推進し、新技術を地域課題の解決や新たな価値創造につなげていくことが重要です。

このため、令和3年3月「福井県DX推進プログラム」を策定するとともに、4月には知事を本部長とする「福井県DX推進本部」を設置しました。「生活」・「産業」・「行政」の各分野でDXを進め、県民のくらしの質を一層高める「スマート福井」の実現を目指していきます。

②デジタル化(DX)

Digital

3つの分野でDXを推進し“スマートふくい”を実現

福井県DX推進プログラム



- ①生活のDX (くらしのデジタル化)
- ②産業のDX (しごとのデジタル化)
- ③行政のDX (自治体のデジタル化)

生活のDX

- 〔スマート×まちづくり〕
- 〔スマート×交通〕
- 〔スマート×福祉〕
- 〔スマート×防災〕
- 〔スマート×教育〕

産業のDX

- 〔スマート×企業〕
- 〔スマート×ものづくり〕
- 〔スマート×農林水産業〕
- 〔スマート×観光〕

行政のDX

- 〔スマート×県庁〕
- 〔スマート×市町〕
- 〔スマート×広報広聴〕

②デジタル化(DX)

<プロジェクトの例 (生活のDX) >

未来技術活用プロジェクトによる地域課題の解決

生活のDX
スマート×まちづくり

施策の概要

■ 概要

国内外のスタートアップとのマッチング（スマートシティXプログラム）によるプロジェクトの誘致やシビックテックの推進など、未来技術を活用した地域課題の解決を図る。

■ 期待される効果

- ・ 未来技術による地域課題の解決

■ 内容

国内外の企業による地域課題解決のプロジェクト誘致

- ・ 国内外企業やスタートアップ企業が、地域とともに取り組む革新的な技術・サービスの県内での実証を支援（未来技術活用プロジェクト誘致補助金）

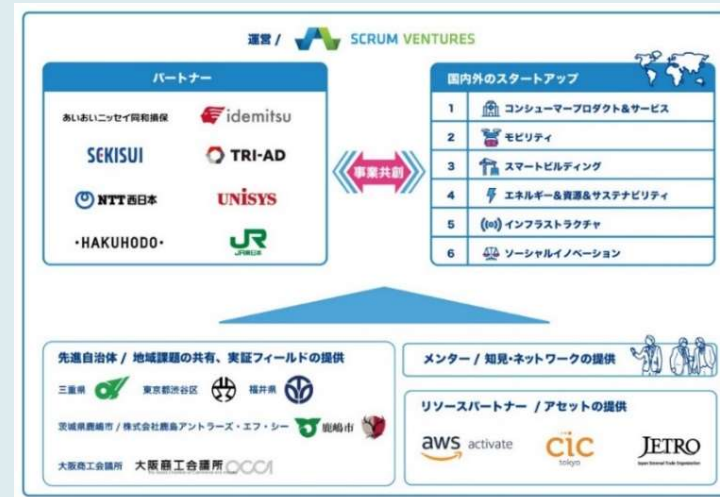
シビックテックによる地域課題の解決

- ・ 住民発の地域課題の掘り起こしとマッチングを図るワークショップ（アイデアソン・ハッカソン）の開催

■ スケジュール

R3年度から開始

▼スマートシティXプログラムの関係機関



■ 補助対象者、連携先企業

- （補助対象者）国内外スタートアップ企業 等
- （連携先企業）スクラムベンチャーズ社 等

■ 予算額等

41,635千円（R3 当初）

■ 担当部局

地域戦略部未来戦略課

②デジタル化(DX)

<プロジェクトの例 (産業のDX) >

県内企業のDX推進

産業のDX
スマート×企業

施策の概要

■ 概要

県内企業のデジタル技術の導入促進やデジタル化のレベルアップを図り、ビジネスモデル等の変革を目指すことで、県内企業のDXを推進する。

■ 期待される効果

- ・ 県内企業の業務効率化、付加価値の向上

■ 内容

DX推進体制の整備

- ・ DX戦略アドバイザーによる伴走支援、DX研究会による先進事例共有、セミナー・専門家派遣等
- ・ DXオープンラボの開設・運営
- ・ 外国人IT人材受入のためのモデル的な雇用

デジタル技術導入に対する資金的支援

- ・ 企業のデジタル技術導入に対する資金的支援

■ スケジュール

R3年度から実施

■ 支援体制の強化



DX戦略アドバイザー



DX推進チーム

■ 事業主体、連携先

(事業主体) (公財) ふくい産業支援センター
(連携先) (一社) 福井県情報システム工業会 等

■ 予算額等

141,427千円 (R3 当初)

■ 担当部局

産業労働部創業・経営課

②デジタル化(DX)

<プロジェクトの例（行政のDX）>

デジタル県庁の実現

行政のDX
スマート×県庁

施策の概要

■ 概要

ニューノーマルに対応するため、デジタルツール導入、ネットワーク環境の整備を行い、県庁の働き方改革、県民サービスの向上を図る。

■ 期待される効果

- ・ 県庁の働き方改革の推進
- ・ 県民サービスの向上

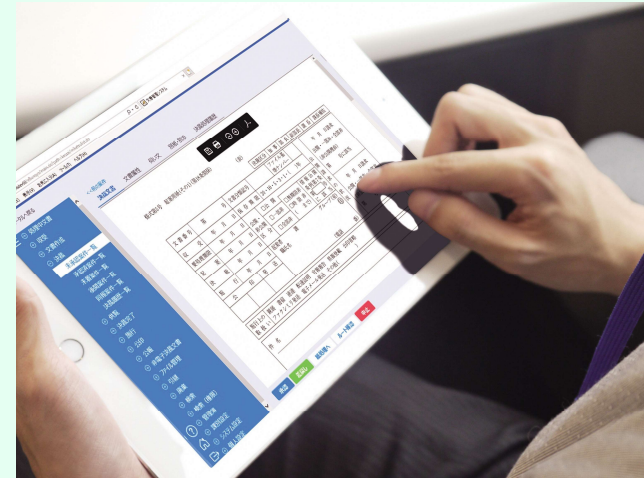
■ 内容

- ① 電子決裁・文書管理システムの導入
- ② 電子申請の拡充
(押印の廃止、ペーパーレス、ワンスオンリーの徹底)
- ③ 県・市町共同「ファイル共有システム」の利用
- ④ テレワーク環境の維持
- ⑤ モバイルワーク端末の利用環境運用
- ⑥ AI・RPA技術を活用した事務処理の効率化
- ⑦ 出先機関の行政情報ネットワーク無線LAN化
- ⑧ Web会議実施のため職員用端末の更新

【福井県官民データ活用推進計画（案）】

■ スケジュール

R元年度～⑥ R2年度～③④⑤⑧
R3年度～①②⑦



■ 連携先企業

日本マイクロソフト株式会社、IT企業 等

■ 予算額等

625,786千円（R2 2月補正）（統計情報課）
11,628千円（R3 当初）（情報公開・法制課）

■ 担当部局

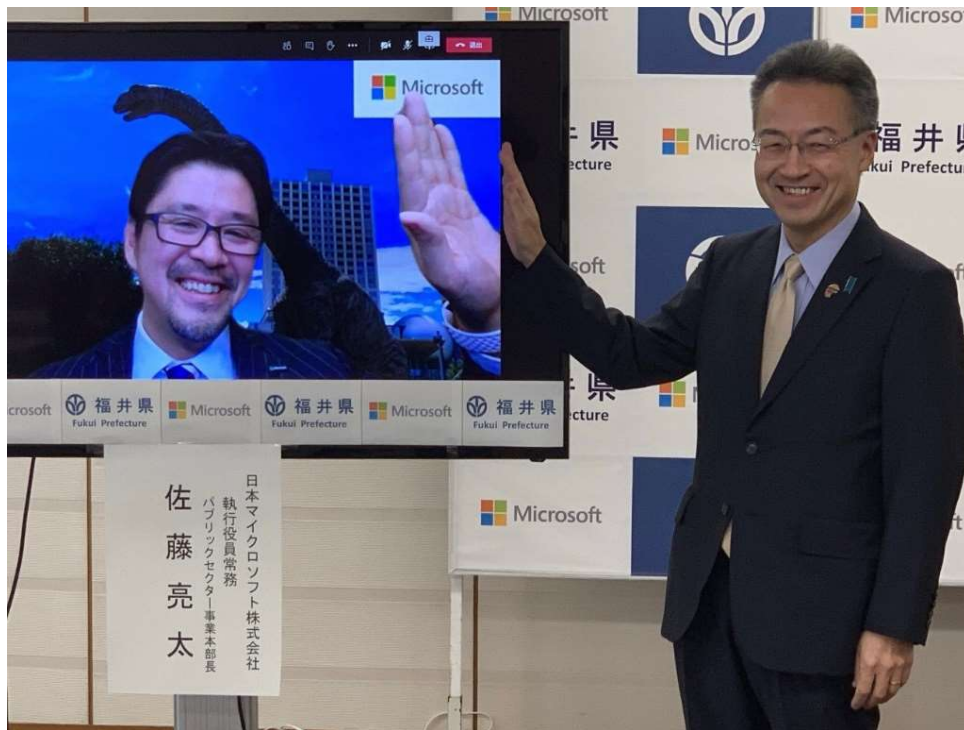
総務部人事課、情報公開・法制課、
地域戦略部統計情報課

②デジタル化(DX)

DX推進のため、IT企業と連携協定を締結

・日本マイクロソフト株式会社（令和3年2月）

・株式会社NTTドコモ（令和3年3月）



(R3.02.10)



(R3.03.08)

②デジタル化(DX)

DX推進の体制整備

- ・株式会社NTTドコモからIT専門人材を招き、「DX推進監」に任命（令和3年4月）
- ・知事を本部長とする「福井県DX推進本部」を設置（令和3年4月）
- ・県内市町と協働でDX推進



第1回福井県DX推進本部会議（R3.04.28）



県内市町とのDX推進ワークショップ（R3.05.25～27）

③データサイエンス(EBPM)

これまでの政策立案においては、課題解決の手法を検討する際に、政策担当者の個人的な知識や経験などに基づく仮説をもとに、その解決策を論じるなどのケースが見受けられました。

より説得力のある政策づくりを行うためには、個人の主観的な情報（エピソード・ベース）に基づく政策立案ではなく、根拠の明確化やデータによる成果の検証、政策インパクトの比較分析など、「データサイエンス」の知見を活用していく必要があります。

このため、データ解析による客観的な情報（エビデンス・ベース）に基づく政策立案の仕組み（E B P M：Evidence Based Policy-Making）を導入します。E B P Mの推進にあたっては、データ分析のスキルを持つ専門家と協働し、幅広い政策分野への展開を図ります。

③ データサイエンス(EBPM)

データに基づいた政策立案

Data

「Science for Science」 → 「Science for Society」
「Science for Policy」

E B P M (Evidence Based Policy-Making)

個人の知識や経験などの
主観的な情報(エピソード)
に基づく政策立案

エピソード・ベース

データの分析・解析を経て導き出
された客観的な情報(エビデンス)
に基づく政策立案

エビデンス・ベース

③データサイエンス(EBPM)

EBPMの3つの利点

ポイント①

政策立案の**根拠**が明確になる

- 政策の**説得力・納得性**が向上！

ポイント②

政策成果をデータにより**検証**できる

- 客観的な情報に基づく**政策の改善**が可能に！

ポイント③

複数の政策の**インパクト**が分析できる

- 費用対効果を踏まえた**政策の優先順位付け**が可能に！

③ データサイエンス(EBPM)

< 取組例 >

令和2年度新規事業

人口減少対策データ分析・調査事業

EBPMを学ぶオンラインセミナー

初回の試み!

参加費 無料 (事前申込制)

データサイエンスによる人口減少対策の提案!

近年、注目を集めている「データサイエンス」。個人の知識や経験に基づく主観的な情報（エピソード）ではなく、データの分析・解析を経て導き出された客観的な情報（エビデンス）に基づき政策を立案する仕組み（EBPM: Evidence Based Policy Making）の導入が模索され始めています。

福井県では、人口減少対策の分野で初めてこの手法を取り入れ、専門家との共同による調査・分析を実施しました。データサイエンスに基づく政策立案やEBPMについて学ぶ初のオンラインセミナーです。

- ▶ データ解析の手法を活用
- ▶ 政策インパクト分析
- ▶ エビデンスに基づく政策立案

日時
2021. 2. 9. Tue / 13:00 ~ 15:00
※ お申し込みいただいた方に視聴用YouTubeチャンネルのURLをお送りします。

プログラム

第1部 自然減対策
福井県の自然減対策政策への評価とEBPM
～データサイエンスによるアプローチ～
黒木 淳 氏
横浜市立大学大学院 データサイエンス研究科准教授

第2部 社会減対策
福井県の人口減少を抑える3つのこと
～社会経済統計とアンケート調査の結果分析から読み解く!～
杉山 友城 氏
福井県立大学 地域経済研究所 准教授

申込
所属・氏名・メールアドレスを添えて、下記のアドレスにメールにてお申込みください。

お申込みお問い合わせ
TEL 0776-20-0258 (平日:9:00~17:00)
FAX 0776-20-0623
MAIL mirai-senryaku@pref.fukui.lg.jp
主催 福井県地域戦略部未来戦略課



人口データ分析のスキルを持つ
専門家を公募し、人口減少の
実態等の調査分析を行うとともに
対策に活用

③データサイエンス(EBPM)

<取組例> [自然減対策の分析結果]

■研究者

黒木 淳 (横浜市立大学大学院 データサイエンス研究科 准教授) 他

■概要

○2030年の合計特殊出生率1.80達成には予測出生数から**581人**の上積みが必要
(5,145人→5,726人)

○25-34歳の女性人口は2030年まで維持傾向、今後10年間の政策が極めて重要

○女性の婚姻年齢を**1歳引き下げ**ると希望出生数が**0.14人増加**

○県の政策への**認知**は希望子ども数を**引き上げる**効果

- ・すみずみ子育てサポート事業 (+0.402人)
- ・すまいるFカード事業 (+0.758人)

○**子育てイメージ** (生きがい・喜び・義務や責任) は婚姻意欲に**プラス**の影響

【政策提案】

○**早婚の促進** ⇨ 「早婚夫婦支援金」「AIマッチングシステム」

○県の**政策認知度向上** ⇨ 「ふく育」応援団の創設

○**子育てに対するイメージアップ**による婚姻意欲の向上 ⇨ 婚活イベントを活用した子育てを学ぶセミナー開催

③ データサイエンス(EBPM)

< 取組例 > [社会減対策の分析結果]

■ 研究者

杉山 友城 (福井県立大学 地域経済研究所 准教授) 他

■ 概要 (独自アンケート調査分析)

○どの世代も15~24歳の人口の流出 (進学・就職) が顕著

○進学による転出理由としては大きく以下の2点

- ・ 学びたい学部・学科なし (46.5%)
- ・ 学力に見合う進学先なし (41.6%)

○県外進学者の県内就職検討を

「あまりしなかった・しなかった」が79.2% (D I:58.4)

○流出者は仕事面でのデメリットを感じる傾向

【流出者の福井へのイメージ】

- ・ 高収入を得にくい
- ・ キャリア形成が困難 ⇨ スキルアップ型移住戦略
- ・ 仕事の幅・コネクションを広げにくい
- ・ 転職がしにくい

○流出者やUターン者が福井県を離れた背景は大きく以下の2点

- ・ 職業上のキャリア形成の困難性
- ・ 地域の不寛容性

【政策提案】

○県内企業の高付加価値化および先進的企業の誘致 ⇨ 企業誘致補助金の見直し

○「豊かでくらしやすいふくい」を体感できる機会の創出 ⇨ 「移住応援パック」

○大学等進学時の受け皿整備 ⇨ 県立大学新学部・新学科創設

④地方兼業(都市人材コラボ)

多様化する地域課題の解決や、新しい価値を生み出す政策立案を行うためには、“内の力”に加え、都市部の専門人材が有する知見＝“外の力”を最大限に活用することが必要です。

また、都市部の企業を中心に、副業など社員の自由な働き方を推奨する動きが見られるとともに、移住など地方における仕事、生活への関心も高まっています。

このため、都市人材の新たな働き方として注目されている「地方兼業」のモデルとして、令和元年11月、都道府県で初となる副業・兼業限定の「未来戦略アドバイザー」を全国公募・委嘱しました。県庁の各分野に外部のプロフェッショナル人材の参画を促進し、多様なアイデアやノウハウを政策に活かす仕組みづくりを進めていきます。

④地方兼業(都市人材コラボ)

< 未来戦略アドバイザーの委嘱 (令和元年度) >

- ・都市部で働く専門人材を副業・兼業限定で募集 (全国初)
- ・令和元年度は広報・マーケティングの専門家を募集 (421名応募→4名委嘱)

地方兼業 (未来戦略アドバイザー)

「都市人材」の知見を
県政運営に活用

副業・兼業限定

**新たな広報戦略で
100年に1度の
チャンスをつかむ**

福井県長期ビジョン策定に
関する広報戦略業務



「県民参加」を促す広報戦略で、福井の
「未来地図」を描く

福井県

県長期ビジョン広報アドバイザー
坂井さん(福井出身)ら4人委嘱



県の未来戦略アドバイザーの委嘱を受けた(左から) 瀬戸さん、坂井さん、大宮さん、太田さん=22日、県庁

県は22日、長期ビジョンの
広報戦略を担う「県未来戦略
アドバイザー」に、福井市出
身の会社員坂井美帆さん(35)
|| 東京都||ら県外在住の4人
を委嘱した。任期は来年3月
末まで。ビジョンの認知度向
上へのPR手法などを検討し
てもらう。
委嘱されたのは坂井さんの
ほか、あわら市出身のNPO
法人職員大宮千絵さん(36) ||

神奈川県||と、会社員太田誠
二郎さん(41) || 東京都、フリ
ージャーナリスト瀬戸久美子
さん(43) || 神奈川県。
都市部で働く専門知識を持
つ人材に、休暇などを利用し
て地方の課題解決にも活躍し
てもらう「地方兼業」のモデ
ルケースとして県が公募し
た。421人の応募者から選
んだ。
県庁で委嘱状を手渡した
県地域戦略部の藤丸伸和副
部長は、「ビジョンに対し
て、県民にいかに関心を持
ってもらうかが鍵になる。い
ろんなアドバイスをいただ
きたい」と要望した。投資フ
アンドで広報担当をしてい
る坂井さんは「培った経験を
生かし、地元に貢献したい」
と抱負を語った。
(桂知之)

④地方兼業(都市人材コラボ)

< 未来戦略アドバイザーの主な活動と成果 >

成果①

長期ビジョンの**内容**をわかりやすく訴求

- ✓ 「新時代スタートアッププロジェクト」
をビジュアル化



\\とんがろう、ふくい// デザインシート

成果②

長期ビジョンを県民に**共有**する手法立案

- ✓ SNS (facebook、note) を活用した発信
- ✓ 県内活動者のインタビュー YouTube 配信
- ✓ 小中学校向け、出前講座のブラッシュアップ
- ✓ 長期ビジョン関連セミナーのPR手法立案
- ✓ 主催者募集型ワークショップ

「FUKUI未来トーク」企画



公式note開設 (出前講座)



県内活動者へのインタビュー YouTube 配信

④地方兼業(都市人材コラボ)

< 未来戦略アドバイザーの委嘱 (令和2年度) >

・令和2年度はデータサイエンスの専門家を募集 (496名応募→2名委嘱)

地方兼業 (未来戦略アドバイザー)

「都市人材」の知見を
県政運営に活用



データの力で福井創造
県未来戦略アドバイザー
東京の専門家2人を委嘱

県は5日、データを活用した政策作りに助言・提案する県未来戦略アドバイザーに製菓会社勤務の寺岡亮さん(38)＝東京都＝と、大手教育機関で働く佐々木健太さん(36)＝同＝を委嘱した。任期は2021年度末まで。

第2期のアドバイザーとして「データサイエンスの専門家」を公募し、496人の応募者から選んだ。

オンラインで委嘱式を行い、県地域戦略部の藤丸伸和副部長は「県としてデータを使いこなせていないと痛感している。福井県の新しい未来をつくることに経験とスキルを貸していただきたい」と述べた。

寺岡さんは経済産業省で10年近く経済分析に携わった経験があり「国と民間の両方の経験を生かせる」と

強調。新型コロナウィルスの影響を受けている業種をデータに基づいて特定し、

支援策を立案していくことなどができるとした。

毎年福井を訪れているという佐々木さんは、大好きな福井に強い思いがある。グループの検索キーワードの傾向を福井県の観光施策に結びつけていくなど、できることは無限にある」と意気込みを語った。(伊豆倉知)



⑤チャレンジ政策提案

若手職員が、前例にとらわれない柔軟な発想で企画立案に関わることにより、優れた政策の創出が期待できます。さらに、“自分のやりたいこと”を具現化できる仕組みは、職員一人ひとりのやる気を引き出し、組織全体の活性化にもつながります。

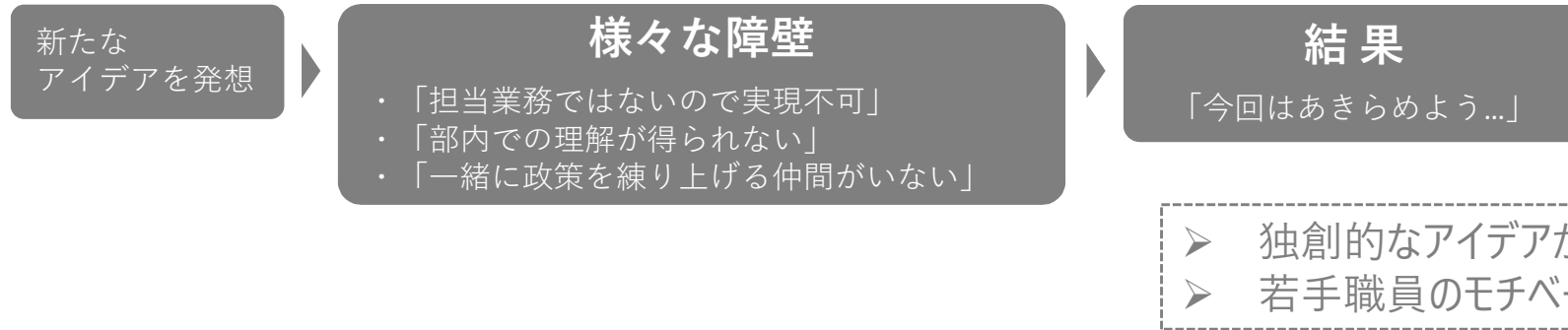
このため、若手職員が自らテーマを選定し、自発的なチームを編成を経て政策を練り上げ、知事と直接議論する「チャレンジ政策提案」の仕組みを導入しました。

職員のチャレンジを県庁全体で応援し、若手の「意欲」と「発想」を活かす新たな政策づくりを促進します。

⑤チャレンジ政策提案

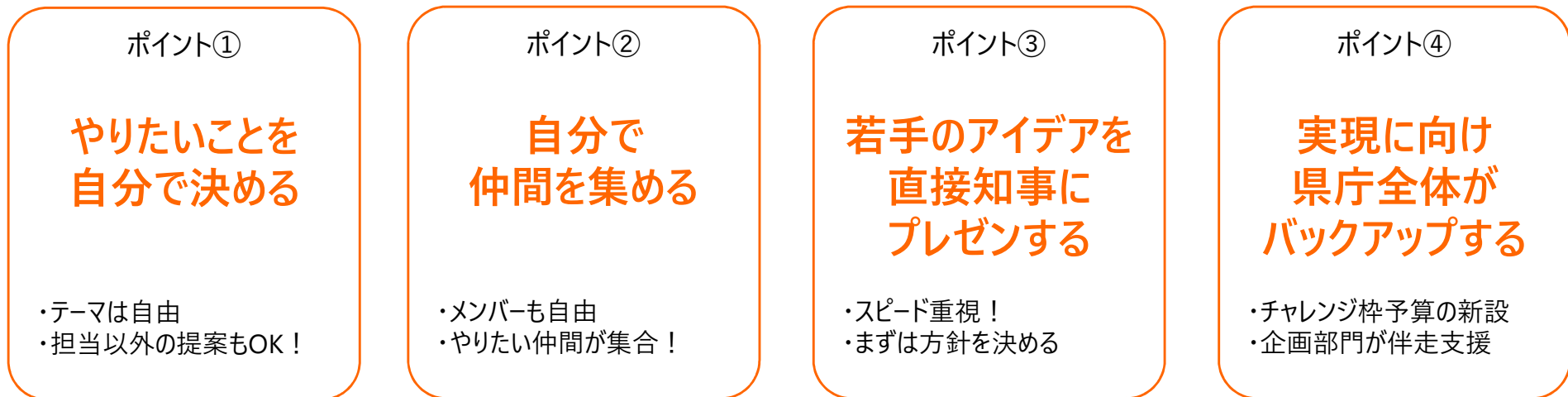
- ・若手有志が主体的にグループをつくり部局横断的な政策を企画
- ・企画したアイデアを知事に直接プレゼンし、優れた政策は予算編成手続きを経て事業化

従来



チャレンジ政策提案

「最初(=テーマ選定)」から「最後(=事業実施)」まで自分たちがやりたいことに関わる仕組み



- 独創的なアイデアによる優れた政策を創出
- 若手職員のモチベーション・企画能力が向上

⑤チャレンジ政策提案

【令和2年度の例】

企画からプレゼンまで約2か月間
スピーディな意思決定！



事前プレゼンテーション



知事の前で若手がプレゼン！



提案者

ステップ①
チームづくり



一緒に考える
仲間を集めよう！

5.1通知

ステップ②
参加エントリー



アクションを
起こそう！

~5.29

ステップ③
政策立案



アイデアを政策に
つなげよう！

~6.30

ステップ④
事前プレゼン
政策ブラッシュアップ



政策を
磨き上げよう！

7.1~

ステップ⑤
知事プレゼン



知事に
思いを伝えよう！

7.31

ステップ⑥
事業化



アイデアを
実行に移そう！

バックアップ

財政課との
制度内容の協議

仲間集め
の支援

担当課への
協力依頼

プレゼンの練習
とアドバイス

プレゼンの
フォロー

チャレンジ枠予算確保
担当課との調整

⑤チャレンジ政策提案

< 令和 2 年度の成果 >

- 参加エントリー 38 件 (のべ134名)
- 知事への提案 14 件 (71名)
- 予算要求 10 件
- 事業化 7 件 (1.48億円)

⑤チャレンジ政策提案

< 事業化が実現した提案（令和3年度予算等） >

提案テーマ	事業名	予算額 (千円)
ビッグデータの利活用 ～OODAループの高速化～	ビッグデータ活用推進事業	7,260
ごこイチ（五湖一周）おもてなしプラン	嶺南広域サイクリングルート整備事業	8,207
「福井遺産」活用コンシェルジュプロジェクト	歴史的建造物等活用コンシェルジュ プロジェクト	4,628
AI・IoT等を活用した防災体制の推進について	AI・IoTを活用した防災体制整備の実証	ゼロ予算
	避難所運営のDX化推進事業	36,987
共生社会の実現に向けて 第一歩：「手話」を楽しむ！	『み（魅・見）せる』共生社会推進事業	47,241
はぴりゅうアニメで総合土木職をPRする	アニメで土木職の魅力発信事業	8,745
河川空間の利活用による賑わいの創出	河川空間の利活用による賑わい創出事業	35,000
合 計		148,068

3 機動的対応

徹底現場主義に基づく県政運営

- ① O O D A ループ
- ② 職員クレド
- ③ 政策トライアル枠予算
- ④ 県職員の兼業・副業
- ⑤ ふくい式 20%ルール

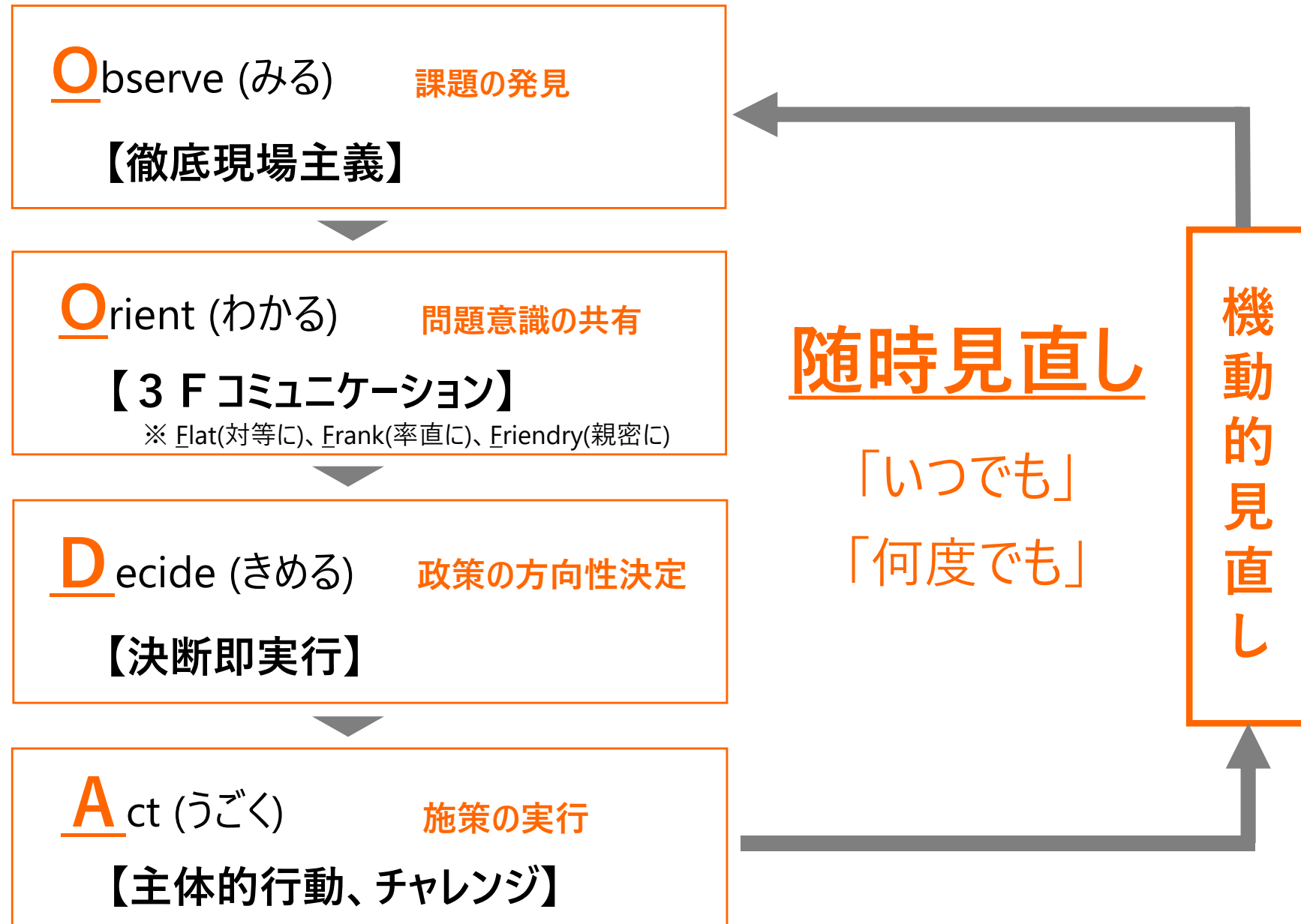
①OODAループ

政策合意（PDCAサイクル）に基づく従来のマネジメント手法は、おおむね1年間の運用を想定したものであり、年度当初に設定した目標を1年かけて実行するというスタイルでした。

PDCAサイクルの重要性については変わるものではありませんが、社会の変化が速い現在、現場の状況に応じて、臨機応変に政策を見直していくことが求められます。

このため、徹底現場主義により「課題発見」から「実行」、「改善」をできるだけ早くまわすことにより、様々な変化に柔軟かつ機動的に対応していく「OODAループ（ウーダループ）」の考えを実践していきます。

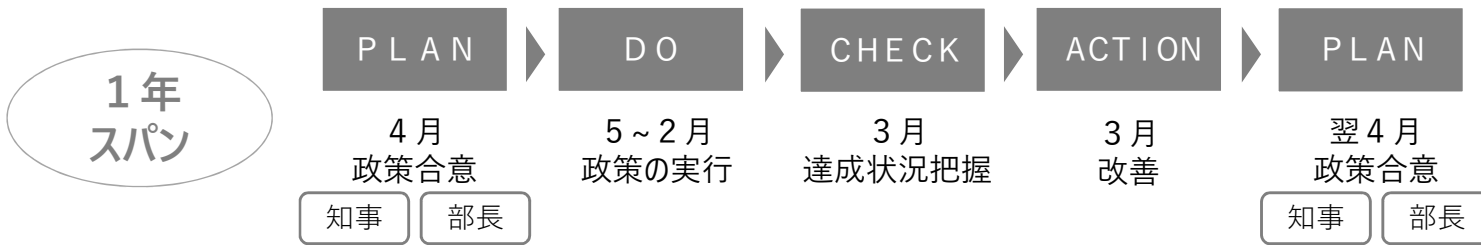
①OODAループ



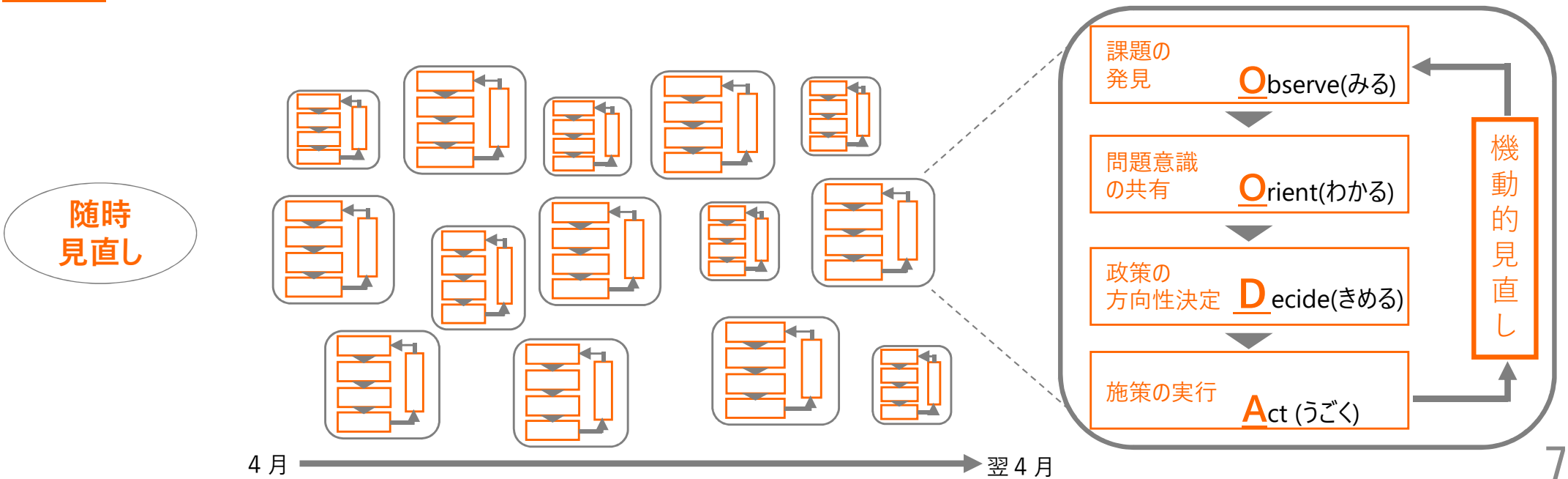
①OODAループ

現場の現状を常に把握し、状況に応じて機動的に施策を見直し

従来 PDCAサイクル 「政策合意」による年度ごとのマネジメント



現在 OODAループ 徹底現場主義により「課題発見」→「実行」→「改善」をできるだけ早くまわす



②職員クレド

さまざまな課題に機動的に対応していくためには、すべての判断を上司に仰ぐのではなく、職員一人ひとりが自らに与えられた責任と権限の中で、的確に判断し責任をもって行動していく必要があります。

職員の日々の業務の拠り所となる、統一された判断基準をつくるため、若手職員が中心となり検討を進め、県職員としての行動規範「福井県職員クレド」を策定しました。

全ての職員がクレドの思想を理解し、常に意識しながら実践することにより、「県民主役の県政」を進めていきます。

クレド：ラテン語で「信条」、「志」、「約束」の意

②職員クレド

- ・職員一人ひとりが自らの判断で責任をもって行動するための規範＝「クレド」を策定
- ・全職員がクレドを常に意識し、「県民主役の県政」を実現

策定の経緯

- ・20～30代の職員10名による検討チームを設置
- ・検討チームによる原案について全職員を対象にアンケートを実施
- ・県内外の有識者から意見を聴取

R元.9月 「福井県職員クレド」施行



②職員クレド

<福井県職員クレド>

私たちは、徹底的に現場にこだわり、県民の声を聴く「県民主役の県政」を常に意識し、次の5つのクレドに基づき責任を持って行動します。

①「現場」って本来の職場

- ・自分にとっての現場がどこか確認する。
- ・現場の状況、相手をよく観察する。
課題を探す。
- ・現場を起点に、解決への切り口をより多く見つける。



④「創意工夫」って現状打破

- ・制約を理由にあきらめない。
「アイデアを拡げて絞る」を繰り返す。
- ・自分の領域・分野の外からも考えてみる。
- ・ありそうでなかった“新しい常識”を福井県から生み出す。



②「挑戦」って毎日するもの

- ・自分の枠に捉われず、小さな挑戦を毎日続ける。
- ・批判だけで終わらない。
共に解決策を考え、挑戦する仲間を応援する。
- ・挑戦による失敗から学ぶ。安心して挑戦できる職場を作る。



⑤「効率化」って決める覚悟

- ・県民と自分のために、最小の時間で成果を最大にする。
- ・仕事の目的を考え、「やるべき仕事」の優先順位を決める。
- ・「やめる、減らす、変える」を実践し、チャレンジする時間を作る。



③「協働」って仕掛けづくり

- ・相手の話をよく聴き、自分の意見と熱意を伝え、信頼関係を築く。
- ・意見が対立した時には、実施する目的を互いに確認する。
- ・相手と自分の強みを活かし、共に参加したくなる仕掛けを作る。



③政策トライアル枠予算

徹底現場主義により把握した地域の課題や住民の意見をもとに、新たな政策をつくり実行していく際に重要なことは、「スピード感」です。これまでは、年度単位で政策を考え、予算化するという仕組みの中、速やかに政策を企画・実行することにやや制約がありました。

このため、新しいアイデアをいち早く政策化できるよう、部局長の判断において試行的に事業を行うことのできる「政策トライアル枠予算」を設けました。

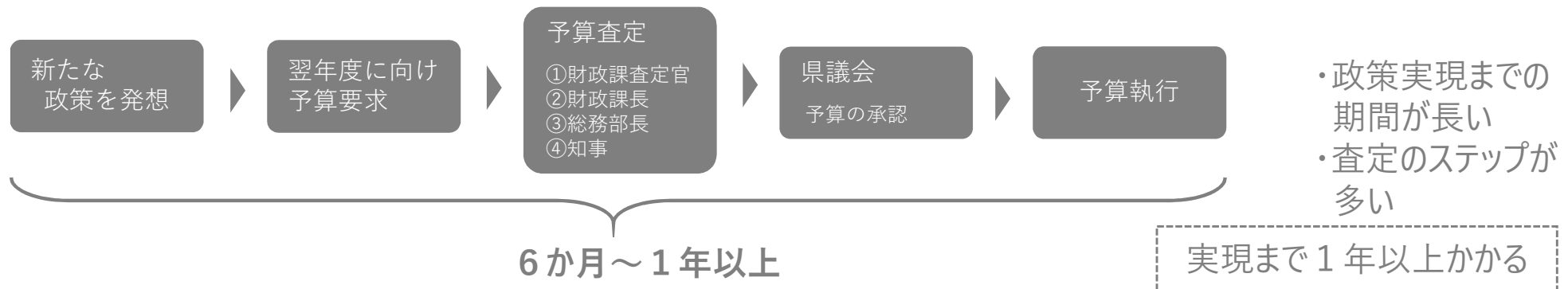
この予算を活用することにより、通常の前算編成手続きを経ずに、スピーディに事業を実施することが可能となります。

加えて、試行で得られた成果と課題を次年度の前算に反映することにより、成果検証に基づく政策立案を効率的に進めていきます。

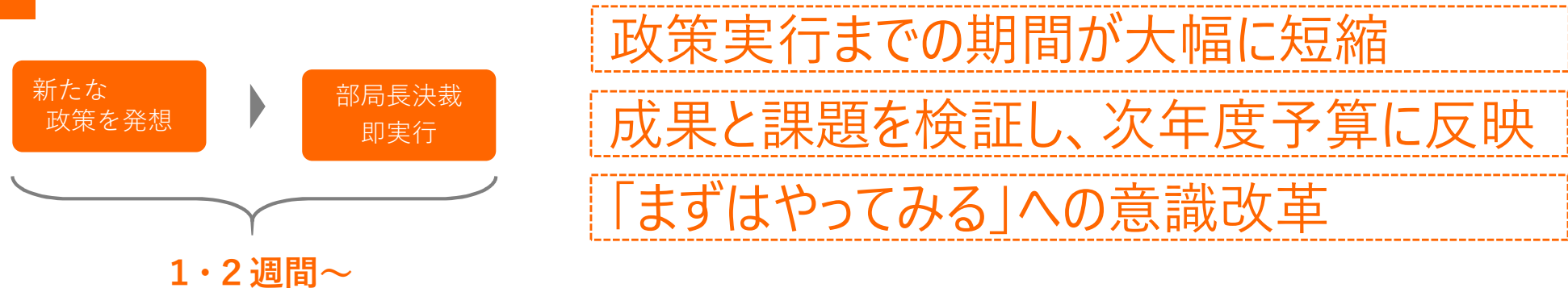
③政策トライアル枠予算

部局長の判断により年度途中で機動的に執行できる予算
(財政当局の査定や知事の承認を必要としない枠予算)

従来



トライアル



③政策トライアル枠予算

< 令和2年度の活用事例 >

R 2 トライアル枠予算		R 3 当初予算への反映	
事業内容	予算額 (千円)	事業名	予算額 (千円)
本庁職員へのパソコン用カードクリップの配布	599	⑨ ウイズコロナ・アフターコロナの新しい働き方推進事業	423
職員がデザイン思考を学べるオンライン研修の実施	790	⑨ 福井県 D X 推進事業	41,635
まちづくりのランドデザイン検討	2,000	⑨ 県都のまちづくり推進事業	4,500
敦賀駅と三方五湖エリアを結ぶ二次交通の検証	1,750	⑨ 三方五湖エリア広域バス実証運航支援事業	4,508
地方移住、ワーケーションに関するオンラインフォーラムの開催	220	⑨ ワケーション推進事業	26,610
嶺北・嶺南 2 会場での「9.98スポーツ教室」の実施	1,632	⑨ フルマラソン開催推進事業	1,886
子育て支援に取り組む店舗・企業等の支援状況・意見調査の実施	1,943	⑨ 「ふく育」応援事業	19,690

④ 県職員の兼業・副業

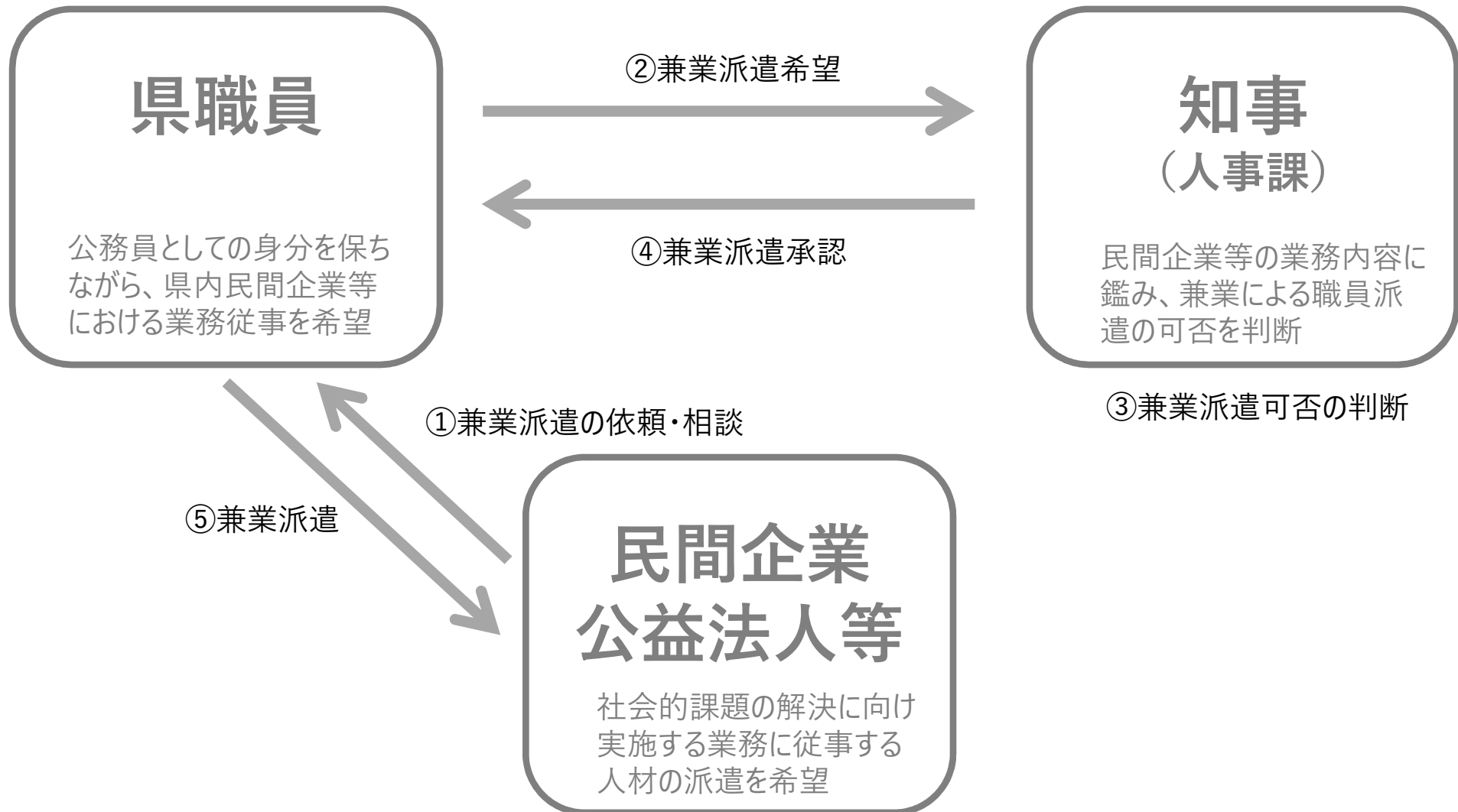
これからの県職員は、徹底現場主義の理念のもと、時には県庁を離れて“現場”に赴き、企業や団体の皆さんとの協働を積極的に進めていく必要があります。職員が有する行政経験や知見をさまざまな地域課題の解決に役立てることも期待されています。

組織外の兼業で得られるスキル、ノウハウや地域とのネットワークは、職員自身の成長にもつながります。さらにこの経験は、今後の政策立案・実行にも役立つこととなります。

このため、「福井県地域ビジネス兼業促進制度」を新たに創設しました。県職員の「兼業・副業」を可能にし、積極的な地域ビジネスへの参画を推進します。

④ 県職員の兼業・副業

「福井県地域ビジネス兼業促進制度」を創設（令和元年10月）
⇒ 県内の民間企業や公益法人等に県職員が兼業で事業参画



④ 県職員の兼業・副業

「県職員の兼業・副業」3つの利点

ポイント①

徹底現場主義による**地域課題**の把握

- 地域の実情を把握し
県政への**フィードバック**が可能に！

ポイント②

職員の**行政経験・知見**を有効活用

- 多種多様な
地域課題の解決に寄与！

ポイント③

新たな**スキル**や**地域とのつながり**を創出

- 職員自身の**スキルアップ**・
ネットワーク構築に有効！

④ 県職員の兼業・副業

< 活動例 >

活動概要	兼業先
防災関連ラジオ番組の運営	NPO法人（放送事業）
養護施設入所 児童向けイベントの運営	NPO法人（児童支援関係）
集落の高齢化・担い手不足による農作業従事	農事組合法人（福井市）
酪農生産者への技術指導	協同組合（酪農関係）
集落の高齢化・担い手不足による農作業従事	農事組合法人（美浜町）
県内企業の製品・サービスを紹介するポータルサイトの作成	(一社)福井県まちづくりセンター
中山間地域の水田畦畔管理支援 (畔の草刈り等)	認定農業者（大野市）
要保護・要支援家庭の親子支援 (子の送迎、学習支援、相談等)	NPO法人（児童支援関係）
集落の高齢化・担い手不足による農作業従事	農事組合法人（若狭町）

⑤ふくい式20%ルール

政策企画、事業実施の効果を高めるためには、組織内の所属や担当業務にとらわれず、各職員が持つ専門性、知識、経験を最大限活かして仕事を進めることが重要です。

また、職員自らの専門性や関心分野を踏まえ、主体的に従事する業務を選択できることは、職員の意欲を向上させ、成長を促し、自律的なキャリア形成に資することが期待できます。

このため、令和3年4月から、職員が勤務時間の一部（20%以内）を活用して、担当業務以外に新たな政策の企画立案等の創造的活動に従事することができる「ふくい式20%ルール」を導入しました。

さらに、若手職員を中心に多様なアイデアを出し合い、迅速に対応策を検討する「タスクフォース」を機動的に編成し、課題解決に向けた事業企画を促進します。

⑤ふくい式20%ルール

「創造的活動従事制度（ふくい式20%ルール）」を創設（令和3年4月）

⇒所属長への届出により、勤務時間の一部（20%以内）を担当業務以外に従事可

制度の目的

- ・担当業務にとらわれず、職員が持つ専門性等を活かした政策企画を推進
- ・職員の意欲向上、成長促進、自律的なキャリア形成を図る

Decide
By Myself



指定課題解決型

担当課が課題を指定し、従事する職員を公募等により集め、タスクフォースを結成。

課題解決に向け政策企画等を行うもの。

指定課題



自主提案型

職員が自発的に課題・テーマを設定して、自発的なタスクフォースを結成。

チャレンジ政策提案制度に基づき政策企画等を行うもの。

自主提案



庁内セカンド・ワーク型

特定分野に優れた専門性・経験を持つ職員が、専門性を活かせる業務に、スポット的に参画するもの。

庁内副業



タスクフォースによる活動

部局をまたいだ職員で編成が可能。迅速に対応策を検討（原則3か月以内）

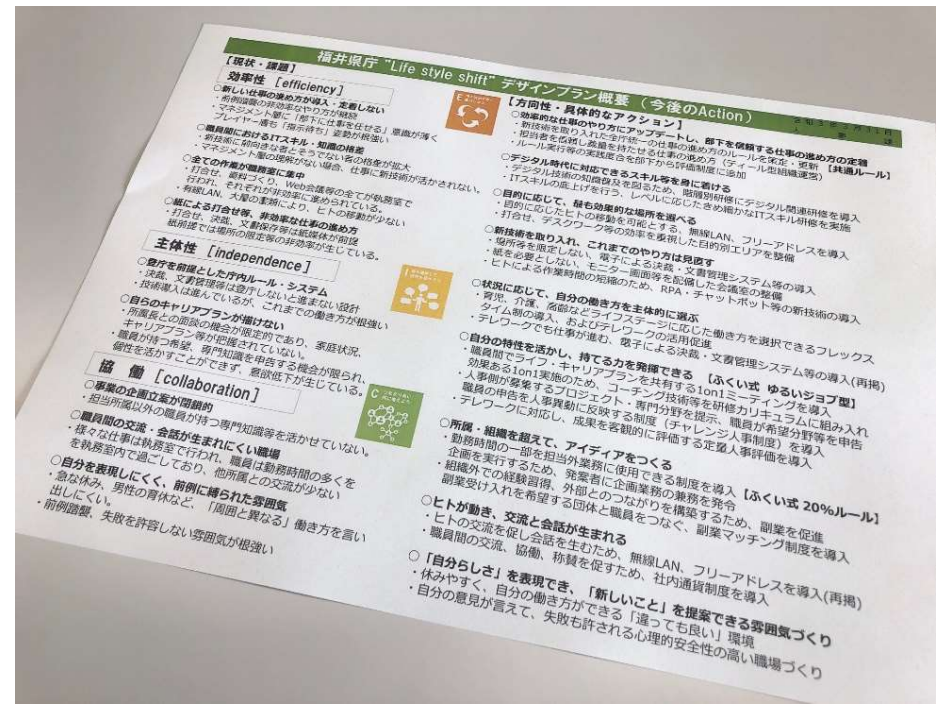
⑤ふくい式20%ルール

「福井県庁“Life style shift”デザインプラン」を策定（令和3年3月）

⇒ 県庁若手職員が議論を重ね、今後の「福井県庁の働き方改革」の方向性を示したプラン

①効率性（efficiency）、②主体性（independence）、③協働（collaboration）

をキーワードに今後実行すべきActionをとりまとめ ※ふくい式20%ルールもそのアイデアの中から生まれたもの



4 総合力発揮

「チームふくい」による県政運営

- ① 知事と市町長との政策ディスカッション
- ② 市町協働課題解決チーム
- ③ しあわせアクション運動
- ④ F U K U I 未来トーク
- ⑤ 将来構想ワークショップ

①知事と市町長との政策ディスカッション

人口減少対策や地域経済の活性化、まちづくりなど多様化・広域化する課題に的確に対応するためには、これまで以上に県と市町が協働し、それぞれが「チームふくい」の一員として、連携・協力しながら政策を進めていくことが必要です。

とりわけ、新規事業の立案においては、問題意識と方向性を事前に擦り合わせるなど、県と市町のトップがコミュニケーションを密にとることが重要です。

このため、予算編成に先立ち、知事と市町長が課題や必要な政策を議論する「政策ディスカッション」の場を新たに設け、課題と方向性を共有しながら、協働して政策を立案・実行していきます。

①知事と市町長との政策ディスカッション

- ・市長、町長と知事が一堂に会し、議論を通して新たな施策や適切な役割分担を決定
- ・予算編成の前に意見交換を行うことで、議論の結果を政策の立案に反映可能



②市町協働課題解決チーム

行政システムの標準化や公共施設管理の適正化など、県・市町共通の課題に対し、両者が協働して解決策を考え実行することにより、さらなる効果が期待できます。また、共通課題に対し、適切に役割分担しながら解決策を実行することは、効率的な行財政運営にもつながります。

このため、県と市町の職員で構成する「課題解決推進チーム」を新たに設置し、協働による効果が見込めるテーマを検討します。

さらに、併せて設置する「分野別検討チーム」において、県と市町の職員が連携して対応策を検討できる体制を整備し、両者が協働して解決に向けた施策を立案していきます。

②市町協働課題解決チーム

< 検討の成果 >

選定テーマ	成 果
(1) システム・物品・役務の共同調達	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル共有システムの実証実験 (全市町とのWEB会議開催が可能に)
(2) マイナンバーカードの普及促進、活用	<ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館でのマイナンバーカードによる貸出開始 ・市町図書館でも順次導入を促進
(3) 公共施設管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・水道、下水道等の広域連携方策の検討
(4) 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・電子データの円滑なやり取りのため、県から送信するメールの添付ファイル暗号化を解除 ・調査事務の整理縮小について8事務を簡略化 ・市町の押印廃止の促進を支援
(5) 県と市町の業務分担の見直し	<p>県で一括実施した方が効率的な事務等について 分担を見直し</p>

③しあわせアクション運動

県民一人ひとりの活動や新たなチャレンジの積み重ねが、福井の未来をつくります。一つひとつの活動は小さなものでも、そのアクションが集まれば、福井を変える力になります。

それぞれが、自分の立場でできることを考え、持ち寄る「県民総参加」の社会に向け、「しあわせアクション運動」を展開します。県民一人ひとりの挑戦を相互に応援しあう社会を目指します。

長期ビジョンの新時代スタートアッププロジェクトのコンセプトは「とんがろう、ふくい」です。新時代スタートアッププロジェクトは、“行政だけが担うプロジェクト”ではなく、“一人ひとりが参加し育てるプロジェクト”として推進します。県民主体の新発想のイベントや若者・女性・NPOなどの新たなチャレンジを徹底的に応援します。

③しあわせアクション運動

「1人ひとりの小さなアクション」がふくいを変える（県民主体の新発想イベント）

まちとくらしに音楽・アート ワンパーク フェスティバル

- 音楽愛好家有志による企画
- 県庁・市役所隣接「県都」での開催
- 街全体が一つのテーマパークに

まちなかのにぎわい
創出を拡大



ワンパークフェスティバル
（会場:福井市中央公園、開催日:R1.7/6,7）

国内トッププロがふくいに集結 アスリートナイト ゲームズ

- クラウドファンディングによる手作り夜間イベント
- “日本初の9秒台”桐生選手が9.98スタジアムに凱旋
- 県民が熱狂！フィールド内観戦で臨場体感

大規模スポーツイベント
の開催



アスリートナイトゲームズ
（会場:9.98スタジアム、開催日:R2.8/29夜）

③しあわせアクション運動

「1人ひとりの小さなアクション」がふくいを変える（県民の「やりたいこと」を徹底応援）

若者・女性・NPOの 県民ワクワクチャレンジ プランコンテスト

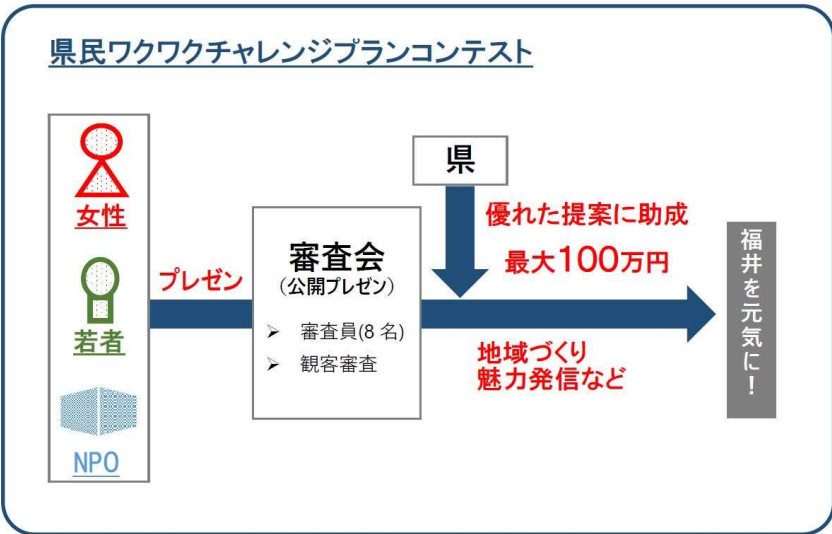
➢ 様々な主体の「やってみたい」を
“ちょい足し”応援

ふるさと納税を活用した 夢実現 クラウドファンディング

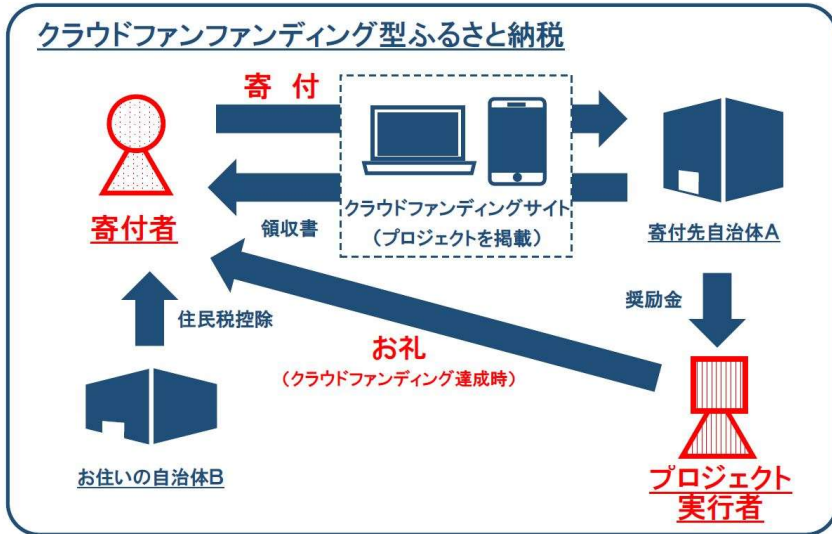
➢ ふるさと納税とクラウドファンディングの
仕組みを組み合わせ、寄付を募集

県民の「チャレンジ」を
徹底応援

県民の「夢」と
応援したい「人」
をマッチング



【実績】
R1：12事業
R2：15事業



【実績】
R1：10事業
R2：10事業

④ FUKUI未来トーク

長期ビジョンに掲げる将来像の実現のためには、県民がふくい将来を自分事として考え、実際に行動していくことが必要です。

これまでの「参加者」募集というスタイルを転換し、「主催者」を募集するという新しい試みである「F U K U未来トーク」を県民自らが開催し、将来像の実現に向けた今後の活動についてグループで話し合い、「私のアクション」を発表します。

県民一人ひとりが自分の立場でできることを考え、持ち寄る「県民総参加」の社会を目指します。

④FUKUI未来トーク

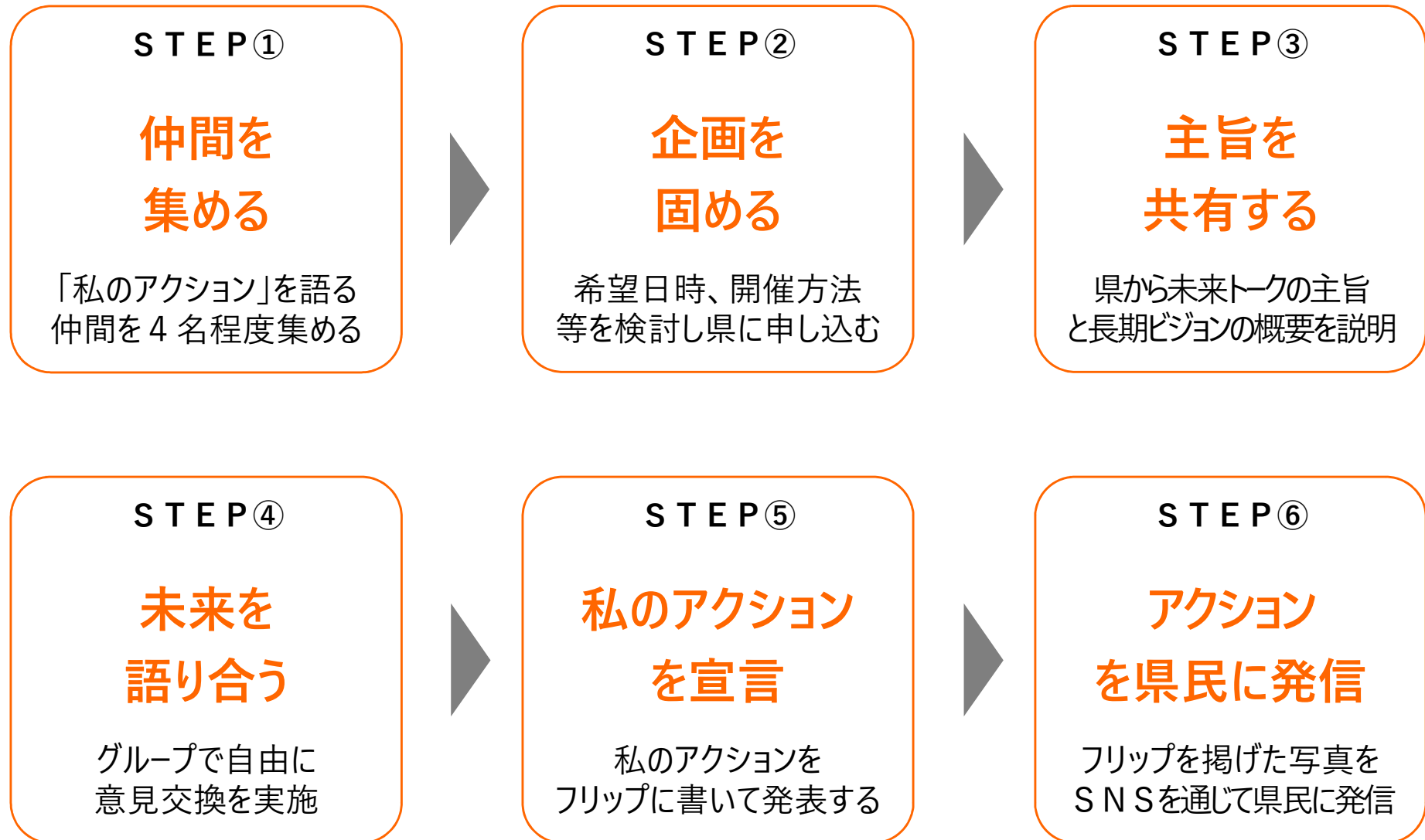
長期ビジョンに示した将来像を実現するために県民自身が何をすべきかを考え発表するワークショップを開催（福井県未来戦略アドバイザーの発案）



福井県
もっとおもしろい
福井にするには…
未来を、一緒につくる
「FUKUI未来トーク」主催者募集 2月10日 締切
福井の未来をつくる“未来トーク”の主催者を募集します(5組)
無料 特典あり 日程応相談

④ FUKUI 未来トーク

<「私のアクション」発表までの流れ>



④ FUKUI未来トーク

・主催者は「行政」ではなく「県民」



・このため、参加するマインドは「受け身」ではなく「主体」に変化



・イベントのゴールは単なる「学び」ではなく具体的な「アクション」へ



④FUKUI未来トーク

県民自身が、「私のアクション」について考え発信



④ FUKUI未来トーク



子供たちが将来福井に誇ってさ
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



学力NO.1をアピール「学校1日」
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



福井で働くことのすばらしさを
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



子供に色々な職業をさせる！
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



大人の笑顔は子供の笑顔 真実
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



多様なコミュニティで生き生き
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



地域に人 多くの「ザキル」がいる
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



若者の活躍に「スポットライト」
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



多様な選択の中から一人ひと
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



個人島を地域の島にするために
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



ポケモンGOのような「旅先GO」
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



「ナビ」のいらぬ店を作る！そ
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



自然環境が就職の時代にするた
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



若返りの具 福井 若返りに最も
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



小学生の運動能力「トップクラス」
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



野生の動物が生きてる街
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



オンラインとオフラインの両い
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



社会全体でゆめを発信！
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



「お父さんがめっちゃサイキョク」
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



日本初 福井のマスクで狂舞
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



20年後新しい会社を立ち上げた
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



日本の産業界界トップを制覇す
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



福井の面白さをタイ人君さんに
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



福井を代表できるモノを選出し
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



福井県の中で世界初のものづく
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



子ども達が色々な職業ができる
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



20年後にはおみせとかいシャッ
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>



仕事に縛られない自由な生き方
<https://www.fukui.com/jp/fukui/kyokai/>

⑤ 将来構想ワークショップ

目指すべき将来像の実現のためには、一人ひとりのアクションが重要です。

「福井県長期ビジョン」の策定にあたっては、「みんなで描こう『福井の未来地図』」をコンセプトに掲げ、徹底的な「県民参加」を目標としました。

市町別・世代別・分野別など様々な形で意見交換会やワークショップを実施し、5000名を超える県民の皆さんに参加いただき、ビジョンを作り上げることができました。

長期ビジョンの策定プロセスを個別の計画策定などにも取り入れ、県民参加型の県政を推進します。

⑤ 将来構想ワークショップ

【モデル】 長期ビジョンの策定プロセス

→ 他分野に横展開

策定プロセスをデザイン（徹底的な県民参加）



※ 出前WS 未来トーク は現在も継続実施中

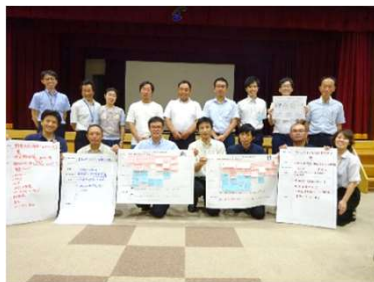
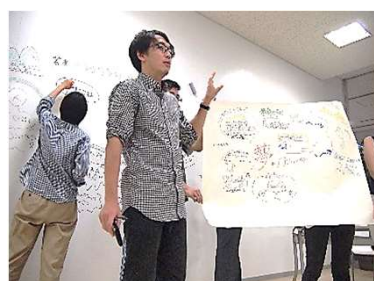
⑤ 将来構想ワークショップ

< 長期ビジョンの策定プロセス >

徹底的な県民参加への工夫

5000人を超える県民参加

※県民アンケート含む



市町別意見交換会
(全市町を訪問)

世代別意見交換会
(学生・若者・子育て)

出前ワークショップ
(小中高・大学・企業)

FUKUI未来トーク
(県民グループが主催)

おわりに

(さらに詳しく知りたい場合は下記にアクセスしてください)

動画で紹介 (ふくい未来チャンネル)


長期ビジョン

2020年度福井県立大学公開講座

みんなで描こう「福井の未来地図」

～福井県長期ビジョンをいっしょに考える～

第1回 長期ビジョンって何？



福井県長期ビジョン
～完成までの道のり～



S N Sで紹介 (Facebook ページ 等)

長期ビジョン



HP



Facebook



note

政策デザイン

無料 TALK EVENT

福井と公共デザイン

2020年10月11日(日)
▶11:00-12:30

8時/うるしの委員会・オンライン配信

講師: 藤丸 伸和 (福井県環境政策課長(兼事務長))
コーディネーター: 景山 直恵 (コーディネーター代表)



データサイエンス

E B P M を学ぶオンラインセミナー

データサイエンス による
人口減少対策の提案!

第1回 福井県の自然減対策政策への評価とEBPM
～データサイエンスによるアプローチ～
講師: 黒木 淳 氏 (福井県立大学大学院 データサイエンス研究科 准教授)

第2回 福井県の人口減少を抑える3つの提案
～社会経済動向とアンケート調査の結果分析から～
講師: 杉山 友城 氏 (福井県立大学 地域経済研究所 准教授)



S D G s



HP



Facebook

地方兼業

『地方兼業』実践者が語る
「ふくいをもっとおもしろく！」

2021年3月20日(土) 13:00～14:30

兼業経験アドバイザー: 本間 隆 氏 (兼業経験者、兼業経験者支援、兼業経験者支援、兼業経験者支援、兼業経験者支援)



チャレンジ政策提案

「チャレンジ政策提案」オンライン報告会

若手職員の“意欲”と“発想”を引き出す 新たな政策づくり!

A I I O T を活用した防災体制の構築
共創社会の実現に向けて ～第一歩: 伊賀(伊賀)～
歴史的建築物等活用コンサルグループ



デジタル化 (DX)



HP



Facebook

策 定：令和3年6月
発 行：福井県（地域戦略部未来戦略課）

〒918-8580

福井県福井市大手3丁目17番1号

TEL 0776-20-0226

FAX 0776-20-0623

Eメール miraisenryaku@pref.fukui.lg.jp

URL <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/index.html>

